

2022-2023

レフェリー指導

ハンドブック



公益財団法人日本ハンドボール協会

競技・審判本部

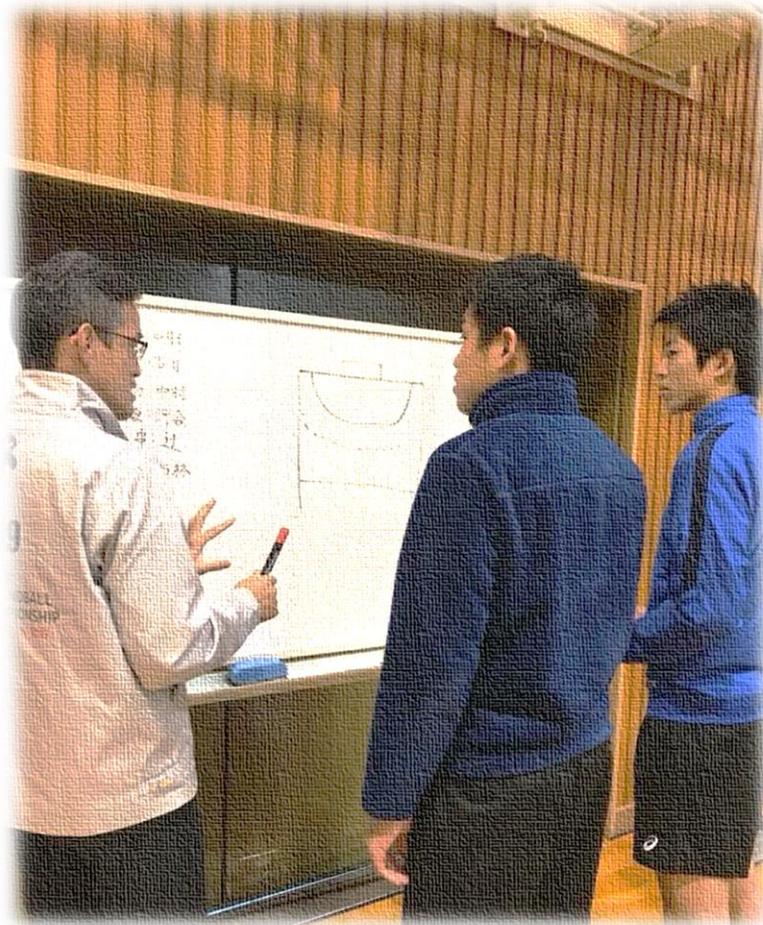
目次



レフェリーの 指導および評価	2
審判員の実技指導の手順.....	5
令和4年度(2022年度)審判員の目標.....	7
2022年度 各級公認審判員の目標.....	20
A 級公認審判員の目標 (2022年).....	22
B 級公認審判員の目標 (2022年).....	24
B 級公認審判員チェックリスト.....	26
C 級公認審判員の目標 (2022年).....	27
D 級公認審判員の目標 (2022年).....	29
レフェリーアセッサーの資質と任務.....	31
A・B級審査会の評価の要点について (2022年).....	39
審判員の倫理綱領.....	40
レフェリー評価票の記入方法について.....	41
レフェリー評価における着眼点 (朱書きは重要ポイント).....	45
カテゴリーごとのモダンハンドボール運用の実際	46
高体連.....	47
中学生専門委員会.....	48
小学生専門委員会.....	50
レフェリー指導用 補助資料	52
レフェリー評価票 (JHA 全日本大会仕様).....	53
評価票 記入例.....	55
レフェリーアセスメント報告書 (JHA 全日本大会仕様).....	56
レフェリーアセスメント報告書 記入例.....	57

※ 本資料内、今回追加した事項について、★印をつけています。
ただし一部修正箇所については、朱書きでの対応となります。

レフェリーの 指導および評価



審判員への指導体制の確立へ向けて

(公財) 日本ハンドボール協会
競技・審判本部

日本国内における審判員への指導及び助言について、その体制を確立したい。
指導・助言体制に関し、(公財) 日本ハンドボール協会競技・審判本部では、その担当を担う者について下記の役割を位置づけている。

- ◆ インストラクター (主に 研修会での講師にあたる)
- ◆ アセッサー (主に 大会における審判員への指導・助言及び評価にあたる)

1. 審判員への指導を行う者

- 審判本部合同委員会メンバー及びサポートスタッフ (審判本部組織図参照)
- 都道府県 (支部) 審判長
- 各カテゴリーの審判長 (ブロック、都道府県) ※ R3 4/17 修正
- 各大会審判長・副審判長
- 各大会マッチオフィシャル (MO)

2. 指導の実際

- 「競技・審判ハンドブック 2019-2020」P100～121【付録】I 審判指導に関する資料
「レフェリーハンドブック 2021-2022」P162～169
- 審判員の実技指導の手順
上記資料に基づき指導及び評価にあたる。

3. 指導のための教材及び資料

- 「競技ハンドブック 2021-2022(P1～65)」および「レフェリーハンドブック 2021-2022 (P1～108)」
- 競技規則及び通達
- 年度目標
- 各級公認審判員の目標
- チェックリスト
- 全日本大会担当審判員候補者研修会資料
- 競技規則問題集 上記資料を使用し指導及び講習会にあたる。

4. 指導場面

1) 各都道府県・連盟における研修会

○ インストラクター

- ・プレゼンテーション指導（審判員の目標、各級公認審判員の目標 など）

2) 各大会における審判会議・ミーティング

○ インストラクター

- ・プレゼンテーション指導（大会中や各日の目標、目標に対しての評価 など）

3) 各大会における試合の後

○ アセッサー

- ・ゲーム観察、分析、評価、指導（各級公認審判員の目標とチェックシートを活用）

参考：

審判員の条件

- ・人間性
- ・競技規則の理解と運用
- ・技術（判定の能力、ポジショニング）
- ・アスリートとしての体力（フィジカル）

これらの観点から指導を行うことが大切である。

目標

「学ぶことを止めたなら、

教えることを辞めなければならない」

審判員の実技指導の手順

(公財) 日本ハンドボール協会
競技・審判本部

審判員が可能性を最大限に発揮し更に向上してくれることを願い、全国にて統一した実技指導を目指し、以下の手順を参考に実技指導を行う。

また、本誌内「レフェリーアセッサの資質と任務 (P31~38)」を事前に確認しておくこと。

◆ 試合前

- ① 指導担当審判員のもと（審判控室等）を訪れる。決して呼びつけたりはしないこと。
- ② 審判員に対して審判員個々に応じた各級の審判員の目標や年度の審判員の目標を確認してから、試合にのぞむことを伝える。
参考：・日本選手権、JHL A級審判員の目標、年度の審判員の目標
 ・全国大会 B級審判員の目標、年度の審判員の目標
 ・ブロック大会（支部大会） C級審判員の目標、年度の審判員の目標
 ・都道府県大会 各級審判員の目標、年度の審判員の目標
- ③ 審判員各個人やペアにおいて課題を持って、試合にのぞむことを伝える。
- ④ 評価表や審判指導用紙（ノート）などを用意し、アセッサ（審判員への指導・助言・評価者）自身も指導のための準備を整える。

◆ 試合後

- *最初に慰労する。
- *トラブルがあった場合でも決して試合直後に指摘しない。
- *更衣後など落ち着いた状態で反省会に入る。
- *関係者以外は反省会に入れない。
- *指導が長時間にならないように配慮する。（30分を超えないように）

反省会の手順

- ① 審判員（ペア）に試合を終えた感想を聞く。
- ② 試合前の課題を聞く。
- ③ 試合前の課題に対してどうであったか聞く。
- ④ 試合での重要事項の確認。
7mT、失格、トラブルなど
特に疑問点はないかを聞くことは大切である
- ⑤ ④に対しての双方向からの意見交換する。
審判員の分析とアセッサ（審判員への指導・助言・評価者）の分析の擦り合わせ

⑥ 審判上の指導を行う。(アドバイス・ヒントを与える)

各級の審判員の目標を基に振り返る。チェックシートを必ず活用すること

各級の審判員の目標、年度の審判員の目標

評価表の記載事項順に指導

必ず良い点を指摘し励ます

重大事項の指導に関しては、よく確認した後に、はっきりと伝える

競技規則の適用違い(断定的)と審判に関する判断(一般的)な場合は使い分ける

競技規則に記載された用語を使用する

最新の情報を取り入れた指導

私見を優先させたり、あいまいな表現をしたりしない

必ず根拠を示し説明する

チェック

両審判員、TDが立会いのもとトスを実施

メンバー表、登録証の確認

ユニホームの確認

(色の濃淡とデザインの組み合わせは、互いに明確に区別できるものを着用すること)

ゴールやゴールネット、ボールの確認

オフィシャルとの連携

定刻でスローオフか

得点の管理

時間の管理

コート上の選手とボールから目を離していないか

得点合図の後に、位置を交代していないか

バックステップで動いていないか

判定後、選手とボールの動きを確認してから、次の行動に移っているか

ゴールレフェリーの際に同じ位置に立ち続けていないか(基本位置は6mラインとゴールポストの間)、状況に応じて素早く移動できているか

7mTの際、コートレフェリーはスロアーの利き腕側に立っているか

GKなしでの攻撃(6人or7人)で、審判の位置取りは妨げになっていないか

手順は正しいか 1) 笛 2) 方向指示 3) ジェスチャー(必要に応じて)

正しいジェスチャーを用いているか

ペアで同じ種類の笛を使用しているか

笛を口にくわえたまま、観察していないか

コート上での立ち姿はどうか

罰則や7mTを判定した後のジェスチャーは、はっきりと1回だけ

役割分担は明確であるか(ペアの領域を判定していないか)

警告を判定の際、タイムアウトにしているか

退場を判定の際、①タイムアウト ②ジェスチャー14になっているか

差し違えた場合、必ず①タイムアウト ②ペアで協議をしているか

⑦ 最後に必ず今後の課題を指摘する。

改善のヒントを与え、良い審判員となるよう励まして終える



【令和4年度(2022年度)審判員の目標】

令和4年(2022年)1月30日

(公財)日本ハンドボール協会 競技・審判本部

指導普及本部

1 『審判員の心得 10箇条』

- | | |
|-------------|------------|
| ① リーダーシップ | ⑥ 身体上の適正 |
| ② 誠実さ | ⑦ ユーモアのセンス |
| ③ ルールに関する知識 | ⑧ 勇気 |
| ④ 冷静さ | ⑨ 協調性 |
| ⑤ 正しい判断 | ⑩ 仲間意識 |

2 『コンタクトプレーを正しく見極める』

ハードプレーとラフプレーの見極め(競技規則 8:1 ~ 8:3)

競技規則第8条「相手に対する動作」は攻撃側、防御側の双方に適用する。レフェリーは、身体接触の際、両者の位置関係(先に位置をとっていたのはどちらのプレーヤーなのか)と、違反があった場合は、その違反を受けたプレーヤーへの影響を正しく見極めなければならない。

- ① プレーヤーが、競技規則8の1に該当する行為ではなく、不利な位置(横や後ろ)からボールを対象とせず)相手プレーヤーに接触したならば、競技規則8の2、8の3の判断基準をもとにラフプレーとして判断する。
- ② 競技規則の適用については、競技規則8の3(d)に記載されている「違反行為の影響」を見極めること。違反を受けたプレーヤーがボディーコントロールを失っていないかどうか、すぐに帰陣できないほどの影響があるかを見極める。もしも、違反はあったが、その違反を受けたプレーヤーがボールと身体を完全にコントロールしている状態ならば、アドバンテージを適用してスピーディーなゲーム展開となるよう、安易に競技を中断してはならない。また、違反を受けたプレーヤーへの影響を見極め、カテゴリーに応じて罰則を適用するかどうかの判断をする。(モダンハンドボールの考え方)

< 研究課題 >

- ◆ **安心・安全なゲーム運営を心掛ける。安心・安全な試合をマネジメントするための言葉かけの工夫。**
- ◆ モダンハンドボールの適用については、各連盟、カテゴリーの実態に応じて適用する。
- ◆ スピーディーなゲーム展開となるよう競技規則を適切に運用し、**特に、試合開始15分間で基準を示し、試合を管理する。これには、笛を吹かない判定も含まれる。**
- ◆ コーチ、プレーヤーとのコミュニケーションの取り方。ボディーランゲージ(Body Language)の仕方。判断基準をもとに判定の根拠を適切に口頭で説明できるようにする。
- ◆ ゴールエリアライン際の判定は全てゴールレフェリーが判定する。ただし、ゴールエリアライン際のピボットの攻防は、**どのプレーヤーが最初に違反したかを見極めゴールレフェリーとコートレフェリーが連携し、管理をする。このような場面では特に、通信機器を有効活用する。**

< 補助資料 1 > 審判員の心得 10 箇条 (スライドショー) 昨年度研修会使用

2021年度 全日本大会担当審判員候補者研修会 【研修 1】



審判員の心得 10 箇条

審判本部長 福島亮一

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

審判員の心得 10 箇条

レフェリーとして大切にすべきことは何なのか・・・

その人、そのチームが練習してきたこと、拘ってきたこと、持っている能力を発揮できるように
手助けするために、レフェリーとして
必要なことは何なのか・・・

優先すべきものから

審判員の心得 10 箇条

レフェリーは、素晴らしいハンドボールを創造する陸の黒出番でなければならない

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

① Leadership / リーダーシップ

「無駄な中断をさせない」という
モダンハンドボールの考え方のもと、
「ボディランゲージ」「口頭」「笛」等を用いて
チーム・監督に基準等を**明確**に伝える



レフェリーはゲームを管理・運営していく**指揮者**として、
選手にどのようなゲームをさせたいかという**ハンドボール感**、
あるいは**ハンドボール理念**を持たなければならない

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

② Honesty / 誠実さ

レフェリーは誠実でなければならない
勝敗の行方がどうであっても**最善**を尽くし、
ひとつひとつを丁寧に・・・



特に**初心者**のプレーほど
丁寧に吹笛する必要がある

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

③ Knowledge of the Rule / ルールに関する知識

ルールを熟知していること、
さらに**その根底にある意図・思想**を理解する

「吹けば責任」
「何をもって吹いたのか」



反則された者が不利に
反則した者が有利になってはならない

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

～レイモンド・オリビエ 氏からのアドバイス～

”真のレフェリー“になるために

- ◆ **競技規則の理解** ここに置きを置くがゆえ、忠実に、正確に(だけで)判定しようとする傾向に・・・
- +
- ◆ **ゲーム エンバシー**・・・選手に、試合に、**共感する力** スタジアムに、その競技に
- ◆ **最小の笛とカードで** 魅力を創り出す

家本審判員 (プロフェッショナルレフェリー)

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

～レイモンド・オリビエ 氏からのアドバイス～

”真のレフェリー“になるために

ハンドボールの**特性**や**歴史**を知って、
「**数少ない笛**」と様々な**information**を用いて、
「ハンドボールの魅力を引き出す(導く)」
ことに、常に**チャレンジ**してほしい

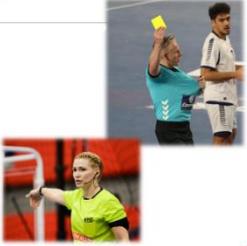


Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

④ Firmness / 冷静さ

感情的になるな!!
瞬間、瞬間に適切な判断をし、
穏やかに振る舞う必要がある

常にゲームの流れ、雰囲気を感じながら**共感**しながら
信念を持ち、**毅然**とした判定を



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

⑤ Good judgment / 正しい判断

よく観察し、はっきり確認したものだけを
判定する
決して予測で吹笛してはならない

ただし・・・
見えたもの全てを判定するのではなく、
発展性の有無を見極めることが大切
(アドバンテージルール)



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



⑥ Good fitness / 身体上の適性

素晴らしい笛 (タイミング、判定基準) は、良い**位置**に
素早く**移動**して、適切に判定することから生まれる

レフェリーもアスリート
「We must run, too」
日々、トレーニングを



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



⑦ Sense of humor / ユーモアのセンス

ユーモアはなくて困るものではないが、もしも
選手を罰するときに**微笑**を持ったなら・・・
あるいは**伝え方**一つにしても・・・

共にこのゲームを作りたいとする
温かい心 (**人間性**) が
相手に伝わるはずである



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



⑧ Courage / 勇気

監督・選手が恩師や先輩であっても、ルールはルール



たとえ罰則であっても
勇気を持って**公平**、**的確**に
そして**毅然**と
判定しなければならない



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



⑨ Cooperation / 協調性

競技場には

第三のチーム (レフェリー**ペア**) が存在すること
二人**しか**いないこと を忘れてはならない

またゲームの運営において、
二人で力を合わせて協調するとともに、大会を支える
チーム・競技役員・補助役員と連携することも重要である



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



⑩ Fellowship / 仲間意識

協調性とほぼ同じであるが、
共にハンドボールを支える沢山の**仲間**の存在を認め、
ゲームや大会が終われば、互いを褒め**称**えることも忘れずに



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



一戦一戦・一瞬一瞬を
真剣に対処すべし



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



< 補助資料 2 > プレゼン R4 (2022) 年度審判員の目標 (パワーポイント)

令和4年度(2022年度)
審判員の目標

1 『審判員の心得 10箇条』
→ コーチ・レフェリーシンポジウム2018 in 熊本
日本ハンドボール協会指導委員会 <https://youtu.be/HGXan1k5Tzw>

2 『コンタクトプレーを正しく見極める』
→ 昨年度より継続
→ 強化・育成共通の理解



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

令和4年度(2022年度)
審判員の目標

コンタクトプレーを
正しく見極める

～モダンハンドボールの考え方から～



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

モダンハンドボール

近年のハンドボール競技の特徴
⇒ 激しいボディコンタクト
スピーディーなゲーム展開

リオ・オリンピック以降、さらに強調

「ハードプレーとラフプレーの見極め」
＜世界基準…日本のプレーヤーが
国際大会で活躍するために＞
われわれレフェリーが、理解し、整理し、
解決していかなければならない課題



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

コンタクトプレーを正しく
見極めるために

「ハードプレーとラフプレーの見極め」

競技規則第8条「相手に対する動作」
⇒ 攻撃側、防御側の双方にあてはまる

＜身体接触の際＞

- ◆ 両者の位置関係
- ◆ 違反を受けたプレーヤーへの影響



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

競技規則 8 : 1 (a) ~ (c)

次の行為は許される

- 他のプレーヤーの手からボールを取るために、**開いた片手**を使うこと
- 相手の身体に接触し、そのまま相手の動きに合わせてついていくために、**曲げた腕**を使うこと
- 位置取りをめくり、相手をブロックするために**胴体**を使うこと



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

ハードプレーとラフプレーの見極め
(防御プレーヤーの位置と防御行為)

防御行為の **ハードプレー** とは・・・

- ◆ 攻撃側プレーヤーの正面
- ◆ 競技規則8:1の状況(例えば、曲げた腕)
- ◆ 相手の安全面を守る

↓

接触の度合いが強かったとしても
ハードプレー として認める



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

良いディフェンスの例
(正面・曲げた腕・ボールに対してプレーする)

DFプレーヤーは、**曲げた腕**を使いながら、相手正面に入り、ついていっている。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

オフENSIVEファールの例
(先に位置を取る・正面)

DFはボールを持ったOFプレーヤーに対して、**先に正面**に位置を取っている。
レフェリーの判定は正しい。
オフENSIVEファール。
相手チームのフリースロー。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

正しいディフェンスの例

DFは相手に対して、正面からのコンタクトを試みている。決して罰則を適用してはならない。

ピボットも明らかな得点チャンスを得ているわけでもないため、OFチームの**フリースロー**。

それ以外の判定はない。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



ハードプレーとラフプレーの見極め (レフェリングの際のポイント)

【 **大切な判断基準（事実判定の根拠）** 】

- ① **ボディコントロール**は？
- ② **プレーヤーへの影響**は？
- ③ **ボールに対するプレー**？



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



① **ボディコントロール**

⇒ シュートを**打ち切ったかどうか** **影響**は？

もしも、ボディコントロールを**失わずに**プレーできているならば…

◆ **ゲームの流れを重視**

◆ **安易に競技を中断しない**

7m スローの判定や
罰則の適用 などにより

モダンハンドボール（ハンドボールの**面白さ**）を表現する



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



② **プレーヤーへの影響**

どの罰則を適用するかについての判断基準（8：3）

- a) 違反行為をしたプレーヤーの **位置**
 ・ ・ 相手に対して、正面？側面？後方？
- b) 違反行為が対象とした **身体の部位**
 ・ ・ 胴体？シュートしている腕？脚？頭部？喉？首？
- c) 違反行為の **激しさの程度**
 ・ ・ 接触の強度は？相手の動きの速さは？
- d) 違反行為の **影響**



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



DFのコンタクトによる シューターへの**影響**を見極める

シューターは、最終的にDFのコンタクトなしにシュートを打ち切っている。

ゴールイン。

違反を受けたプレーヤーへの影響もないため、罰則は不要。シュートを外したとしても、そのまま継続。罰則も不要。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



視点

①DFの位置 ②OFの影響 ③シュートへの影響

DFは積極的に前へ動きながらコンタクトを試みている。決してオフェンスファールには**いけない**。

違反を受けたプレーヤーへの影響もないため、罰則は不要。**ゴールイン。**

シュートを外したとしても、そのまま継続。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



ピボットプレーの場合

ピボットがボールをキャッチした時、DFはピボットへのコンタクトを止めた。

そのため、ピボットは、ボディコントロールを失わずにシュートを打ち切った。

ゴールイン。 罰則は不要。

シュートを外したとしても、そのまま継続。罰則も不要。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



③ **ボールに対するプレー**

防御プレーヤーの位置と防御行為

◆ **ボールを対象としていない**

◆ **不利な位置から接触をした**

⇒ **ラフプレー** として判定
(競技規則 8：2、8：3)



横から

後ろから



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



DFのコンタクト（正しい位置ではない） シューターへの影響

ボディコントロールを失わずに、シュートを打ち切っている。

ゴールイン。罰則は不要。

シュートを外したとしても、そのまま継続。罰則も不要。



ただし、カテゴリーによっては影響がある

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

DFのコンタクト（正しい位置ではない） シューターへの影響

シューターへのコンタクトの影響はなく、ボディコントロールを失わずにシュートを打ち切っている。

ゴールイン。罰則は不要。

シュートを外したとしても、そのまま継続。罰則も不要。



ただし、カテゴリーによっては影響がある

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

即座に2分間退場とすべき違反行為 (8:4)

- 衝撃の大きい違反行為や、高速で走っている相手に対する違反
- 相手を背後から捕まえ続けること、あるいは引き倒すこと
- 頭や喉、首に対する違反
- 胴体やボールを投げようとしている腕を激しく叩くこと
- 相手が身体のコントロールを失う行為をしようとする事
(例：ジャンプ中の相手の足/脚をつかむ。8:5aを参照)
- 高速でジャンプして、あるいは走って相手にぶつかること



開始直後でも、即座に2分間退場もありうる！

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

即座に2分間退場とすべき違反行為

試合開始直後であっても、後方からのプッシングには、即座に2分間退場を判定しなければならない（警告では不十分）。

シューターは明らかな得点チャンスを妨害されたため、7mスローを判定する必要がある。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

即座に2分間退場とすべき違反行為

相手を背後から捕まえ続けているため、即座に2分間退場とする。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

即座に2分間退場とすべき違反行為

相手を背後から捕まえ続け、さらに引き倒したため、レフェリーは即座に2分間退場とすべきである。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

コンタクトプレーを正しく見極めるために

「ハードプレーとラフプレーの見極め」

ハンドボール ⇒ 戦いの競技
コンタクトの発生は必然的

<世界と戦うために>

ハードなコンタクトプレーが不可欠



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

これからのレフェリーの役割

◆世界の流れ
⇒ スピーディーなゲーム展開

◆競技規則8:3 ⇒ 判断基準
・・・ 影響を見極めて判定

◆プレーを正確に観察できる位置取り



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

これからのレフェリーの役割 ～試合開始15分までに基準（許容範囲）を示す～

前半のうちに

インフォメーション
ボディランゲージ
段階的罰則

基準（許容範囲）
を伝えていく

⇒ 後半に罰則を適用する必要がないようにする
(もちろん**罰則を適用する準備**は必要)



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



これからのレフェリーの役割 ～試合を通して～



60分の中で

起きた現象
プレーの質

良いプレーを**保証**し
悪いプレーを**排除**する

違反を受けたプレーヤーへの影響を見極め
罰則を適用するかどうかの判断をする



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



レフェリーの使命



チーム・プレーヤーは日々、トレーニングをしている。
レフェリーの使命は、

安心・安全なゲーム運営
トレーニングの成果を存分に発揮させる

ことである。この使命を果たすために、身体的、精神的、競技規則の理解、映像分析、etc.

大会やゲームに臨むため、そして、大会期間中、ゲーム直前
…日々「準備」をしなければならない。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



ハンドボールの発展のために 皆でトレーニングを積む

Team JAPAN として東京オリンピックの
その先…



レフェリー × 指導 × 強化 =



「スピードハンドボール」

「パワーハンドボール」 追求と発展を共に求めていく

ハードプレーとラフプレーを整理し
コンタクトプレーを正しく見極める



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



< 補助資料 3 > プレゼン R4 (2022) 年度審判員の目標 研究課題について (パワーポイント)

令和4年度(2022年度)
審判員の目標

研究課題について

～モダンハンドボールの考え方から～



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

★ **安心・安全なゲーム運営**

◆ **ハンドボールの概念** (レフェリーハンドブック P3)
ハンドボールの競技規則の精神は…
相手の身体を傷つけることなく である。

↓

8の4、8の5の適用
しかし、その前にできたことはなかっただろうか？
口頭注意、ボディランゲージなどで**予防**できることもある。
(モダンハンドボールの考え方)



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

★ **言葉かけの工夫**

◆ リーダーシップ、誠実さから発せられるべき言葉とは？

「はい、入場して」 「ヘアにも伝えておくから」
「ポイント、ここだよ」 「ありがとう サンキュー」
「ユニホーム、つかまないよ」 「そのまま続けていいよ」
「先に位置を取ってしっかり止まっているからOKだよ」
「Play on」 など…

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

研究課題

◆ **モダンハンドボールの考え方**については、
各連盟、カテゴリーの**実態に応じて適用**

↓

- ・接触(違反)の影響の見極め…**ボディコントロール**
- ・得点の後、**GKスロー**、前半終了間際の**イエローカード**
- ・チームで3枚の**イエローカード** など



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

研究課題

◆ **スピーディーなゲーム展開**となるよう
競技規則を適切に運用し、試合を管理する。

↓

- ・ゲームの流れを優先し、笛の数を減らす。ゲームを止めない。
- ・怪我をした**プレーヤー**への対応
- ・ゴールキーパー不在の状況での攻撃(特にターンオーバー時)
- ・**モップのタイミング**や**ボール交換** など



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

スピーディーなゲーム展開を求める課題
モダンハンドボールとの関連

● 罰則の適用について、**オールド・スタイル**
(6枚のイエローカードを適用し、基準を示すという考え方)が、未だに残っていること。
前半終了間際から後半については、
身体接触に伴う**イエローカード**は適用しない。

● シニア、大学のレベルでは、罰則(警告: **イエローカード**)の適用で、得点を取られた後の**クイックスローオフ**や**ゴールキーパー**スローを中断させてはならない。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

★ **試合開始15分で基準を示す**

- ・ **予防的行動・コミュニケーション**
(口頭での注意、ボディランゲージ)
- ・ 8の1(許される行為)、8の2(許されない行為)、8の3(罰則あり)の違いを**明確**に示す
- ・ 8の4についての判定 (**開始直後**であっても)



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

DFのコンタクトは、シューターに影響はない。
罰則を適用してはならない。
軽微な違反に対して**イエローカード**を適用し、**クイックスローオフの機会を奪ってはならない。**



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

ピボットは倒されてはいるものの、その違反に対する影響はとても小さい。アドバンテージを見て、ゴールイン。



ゲームの流れを優先。笛の数を減らす。ゲームを止めない。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

ゲームの流れを優先し、笛の数を減らすことに重きを置いている。ゲームを止めずに、プレーヤーとコンタクトを取っている。



※あくまでも警告に相当する場面
→退場に相当する場面は、モダンハンドボールの考え方であっても、退場の判定をする。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

空中のプレーヤーに対するこのようなプッシングには、必ず2分間退場の判定をしなければならない。ゴールインしたからOKではない。



退場に相当する場面は、モダンハンドボールの考え方であっても、退場の判定をする。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

スピーディーなゲーム展開を求める課題

- 「怪我をしたプレーヤーが倒れていた（怪我ではないが倒れていることも含む）場合、速攻やクイックスローオフを中断させてはならない」という考え方が、チームに浸透していない。（例え審判が、得点チャンスが消滅するまでその攻撃を認めていたとしても、チーム側からタイムアウトを要求してくる。）
- ゴールエリア内の床が汗でぬれた場合、安易にモップを入れてしまう場面がある。ゴールエリア内は、反対側で攻防が行われている際にモップで拭くことを原則とする。また、ボールの交換についても安易に受けてはならない。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

スピーディーなゲーム展開 負傷したプレーヤーへの対応

負傷したプレーヤーがいる

1st Ref. 『助けが必要ですか』

2nd Player 『はい』 → 『ゼスチャー15』タイムアウト

『いいえ』 → 様子を見る

（答えない）でも、立ち上がらない

『ゼスチャー15』タイムアウト



※『ゼスチャー15』タイムアウト → Ref. 『助けが必要ですか』

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

スピーディーなゲーム展開 負傷したプレーヤーへの対応

『ゼスチャー15』タイムアウト

Ref. : 必ず、最大2名のコート
への入場許可をする



負傷の原因として、相手に罰則が適用されていなければそのプレーヤーはベンチに下がる（3回の攻撃）

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

★ ゲーム展開の優先

たとえプレーヤーが負傷していてもゲームを止めない。しかし、更なるターンオーバーは認めるべきではない。（チームのモラルにも期待する）



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

★ 負傷したプレーヤーへの対応 チームタイムアウトと同時

映像例

フリースローの判定、プレーヤーの負傷 レフェリーが個人へ確認する前にTTO → そのプレーヤーはTTO後も出場可能

その他に考えられること

フリースローの判定、レフェリーが負傷者への対応中に、TTO → TTO中の治療行為は認めるが、そのプレーヤーはTTO後出場はできない（3攻撃アウト）不正なTTOの利用を避けるため

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

ゴールエリア内の床をモップで拭くときは、攻守が入れ替わり、反対のサイドに選手が移動してから行う。(スピーディーなゲーム展開)



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

ゴールエリア内は、危険と認めただけの場合のみ床を拭く。※原則として、攻守が入れ替わり、反対のサイドに選手が移動してから行う。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

ゴールエリアラインとフリースローラインの間等、特に危険と認める場合は、プレーを中断して床を拭く。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

プレーヤーからの要求で安易にボールの交換をしない。(スピーディーなゲーム展開)



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

研究課題



- ◆ コーチ、プレーヤーとの良好なコミュニケーションの取り方
- ◆ ボディーランゲージ (Body Language) の仕方
判断基準をもとに判定の根拠を、適切に口頭で説明できるようにする。
- コミュニケーションを積極的に行うレフェリーが増えた。
- ▲ 判定の根拠が不明確。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

研究課題

- ◆ 判断基準をもとに判定の根拠を適切に口頭で説明できるようにする。
- ▲ 判定の根拠が不明確。
- 『あそこまでは許容範囲です』
- 『あれだけやると激しいです』



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

① ボディーコントロール

⇒ シュートを打ち切ったかどうか 影響は？

もしも、ボディーコントロールを失わずにプレーできているならば…

- ◆ ゲームの流れを重視
- ◆ 安易に競技を中断しない

7m スローの判定や罰則の適用 などにより

モダンハンドボール (ハンドボールの面白さ) を表現する

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

② プレーヤーへの影響

どの罰則を適用するかについての判断基準 (8 : 3)

- a) 違反行為をしたプレーヤーの 位置
 - ・ ・ 相手に対して、正面？側面？後方？
- b) 違反行為が対象とした 身体の部位
 - ・ ・ 胴体？シュートしている腕？脚？頭部？喉？首？
- c) 違反行為の 激しさの程度
 - ・ ・ 接触の強度は？相手の動きの速さは？
- d) 違反行為の 影響



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

③ ボールに対するプレー

防御プレーヤーの位置と防御行為

- ◆ ボールを対象としていない
- ◆ 不利な位置から接触をした
⇒ **ラフプレー** として判定
(競技規則 8 : 2、8 : 3)



横から

後ろから



- ◆ ボールを対象としていない
- ◆ 不利な位置から接触をした
⇒ **ラフプレー** として判定

たとえ曲げた腕でも横(不利な位置)から



横から
伸ばした腕で



横から
伸ばした腕で



- ◆ ボールを対象としていない
- ◆ 不利な位置から接触をした
⇒ **ラフプレー** として判定

両手が顔に...



2人がかりで...横から



研究課題

- ◆ コーチ、プレーヤーとの良好なコミュニケーションの取り方
- ◆ **ボディランゲージ (Body Language) の仕方**



プレーヤー、コーチ、観衆になぜそう判定したのかが伝わるように『大きく・はっきりと』判断基準をもとに判定の根拠を、適切に説明できるようにする。

ボディランゲージ (Body Language)

※視点...判定ではなくボディランゲージ



研究課題

- ◆ ゴールエリアライン際の判定は、**全てゴールレフェリーが判定できるようにする。**

ただし、ゴールエリアライン際のピボットの攻防は、その攻撃形態に合わせ**ゴールレフェリーとコートレフェリーが連携し、管理をする。**

研究課題



- ◆ ゴールエリアライン際の判定は、**全てゴールレフェリーが判定できるようにする。**

ゴールエリア付近の

➡ フリースロー 7mスロー
オフェンスファウル など

ゴールエリアライン際の判定 ゴールレフェリーが判定できるようにする



レフェリーの判定は正しい



レッドカードの判定は正しい



レフェリーの判定は正しい



レフェリーの判定は正しい



7mスローではなく、オフェンスファウルが正しい

研究課題



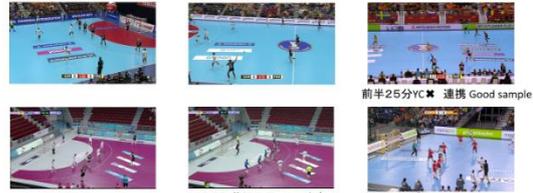
◆ ただし、ゴールエリアライン際のピボットの攻防は、その攻撃形態に合わせゴールレフェリーとコートレフェリーが連携し、管理をする。

フリースロー、オフェンスファウル
ブロックプレー、ユニホームの掴み合い など

共同作業

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

ゴールエリアライン際 ピボットの攻防 ゴールレフェリーとコートレフェリーが連携



前半25分YC★ 連携 Good sample

OF DF 共にユニフォームを掴んでいる

オフェンスファウル
OFがDFのユニフォームを掴んでいる

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

★ ユニホームをつかむプレー

8の2(c) 相手が自由にプレーを継続できるような状態であったとしても、身体やユニホームを掴まえること。

8の3 明らかに（ボールではなく）相手の身体を狙った違反に対しては、罰則を適用しなければならない。

8の4 危険性を軽視した違反行為（b） 掴まえ続ける

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

ユニホームをつかむプレー ゴールレフェリーとコートレフェリーが連携



GRからは見えないかも…
CRの方が見やすい場合もある。
共同作業で管理する。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

ユニホームをつかむプレー 攻撃側がつかむ場合も…



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

ユニホームをつかむプレー これがハンドボールというスポーツ!?



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

★ アクション&リアクション 先に違反をしたのは…?



最初の違反(アクション)を見逃すことによって、次の違反(リアクション)が起こる。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

★ アクション&リアクション どうやって防ぐ…?

○ **ペアでの連携**
アイコンタクト・通信機器 など

○ **プレーヤーへ伝える**
口頭・ボディランゲージ・笛を用いて

※防御側だけではなく
近年では攻撃側の悪質な違反行為が増加

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

今後に向けて 審判員の判定(判断)基準の統一のために

- 映像を用いて視覚的に理解を深めていく。
- 伝達手段としての講習会・研修会の在り方を検討する。YouTube等を活用し、浸透を図る。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



今後に向けて コーチ・プレーヤーへの理解のために

- 連盟、ブロック、都道府県審判長によるチームスタッフやプレーヤーへの講習会（年度当初、大会代表者会議等）の実施。
- 試合中に審判員とコーチ・プレーヤーとのコミュニケーションによって伝えていく。
- 競技規則研究・審判指導委員の大会への派遣



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



©JHA / Yukihito Taguchi





2022年度 各級公認審判員の目標

(公財) 日本ハンドボール協会 審判本部

審判員に対し JHA / 連盟 / ブロック / 都道府県協会審判委員会が、共通の目標を持ち、一貫した指導をすることが必要である。

国内の審判員の多くは都道府県レベルの D 級審判員である。また各ブロック、全日本大会等で積極的に審判活動に関わっている者の多くは A 級および B 級審判員である。そのため、指導の方向としては審判員として、まず、国内最高峰である「A 級審判員」、および全日本大会を担当できる「B 級審判員」のそれぞれの目標を示す。B 級・C 級・D 級審判員がその次の目標を達成することができるように指導助言にあたるのが重要になる。

審判技術の向上には以下の 4 つの要素が不可欠となる。 **※審判員の心得 10 箇条**

- 1) ハンドボールに携わるものとしての人間性
- 2) 競技規則の理解と正しい運用
- 3) 審判員としての技術
- 4) アスリートとして必要な体力

この 4 つの要素を各級審判員の目標の中に反映させ、指導助言にあたる。

1 A 級審判員の目標

A 級審判員の目標を「適切な位置取りと任務分担（対角線式審判法）によって、事実を正しく見極め、的確な判定で、試合を円滑に進めることを追究する」とする。その目標を達成するために

- ① 「レフェリー評価における着眼点」についてその項目の意味を熟知し、
 - ハンドボール競技の特徴をおよび競技規則の解釈と適用を理解した上で、行うべきこと、観察すべきことを適切に実践する。
 - 試合の流れやプレーの展開の予期・予測による実践と、審判員としての任務の遂行に努める。
- ② 瞬発力、スピード・反応性の強化を図り、持久力と的確な判断力の向上に努める。
- ③ **国内最高峰の大会である、日本リーグ・日本選手権さらには日本協会指名レフェリーとして、人間性を発揮し、よき模範として大会審判長・副審判長を補佐する。**

2 B 級審判員の目標

B 級審判員の目標を「競技規則を理解し、正しく運用することによって、試合を円滑に進めることを追究する」とする。

その目標を達成するために

- ① 競技規則試験において A 級審判合格ラインの 85%以上の正答率
- ② B 級審判員の目標に記載されている各項目を熟知し、
 - ハンドボール競技、競技規則、審判員の役割など基本的な知識を理解する。
 - 競技規則に従って試合を運営することと、試合を運営するための基本となる技術の習得と実践。
判断基準を踏まえた説明ができるようになること。
- ③ フィジカルに対する基本姿勢を身につける。持久力をつける。
 - 体カテスト（シャトルランテスト）で男子 77、女子 67 の基準をクリアする。
- ④ 大会運営に関わる知識を身につけ、審判長（大会、各都道府県等）、競技委員長への役割や任務を理解し協力する。

3 都道府県、ブロックにおける指導について

C級およびD級審判員への指導指針

上記のA級・B級の審判員の目標に対する取り組みを踏まえ、C級およびD級審判員には特に、

- ① 競技規則に従って試合を進めるための「競技規則の理解」を深めさせる。
 - 競技規則問題集を用いての座学、ビデオテスト、各種プレゼンを用いたアイトレーニングを各都道府県・ブロックにおいて積極的に実践する。
 - 例) 競技規則問題集から基本的な問題を抜粋し、**競技規則試験において80%以上の正答率(B級審査合格基準)**。
 - 映像資料も分かりやすいものを抜粋する。
- ② 競技規則に従って試合を進めるための笛の吹き方やのジェスチャーの示し方、基本走法の定着を図る。
- ③ 試合の中で起きる事象を見極めるために必要とされる動きの量とスピードを養う。
- ④ 試合中は失敗を恐れず、競技規則に基づいて自分が判断したように、自信をもって判定できるように助言する。
 - 例) 7mスローが必要かどうか悩むなら判定する。
 - 罰則が必要なら判定する(警告か即座に2分間の退場なのかの判断に悩んでも、どちらかは判定できるようにする)。
 - ※起きた事象に反応、判定する(C級に向かって精度を高めていく)。
- ⑤ 基本的な事項を教える。
 - 例) 笛が必要な場面、CRとGRのポジションと役割分担の基本
- ⑥ 試合の中で起きる事象を見極めるために必要とされる動きの量とスピードを養うようにする。
- ⑦ ハンドボールに関わる人々からの情報を得て、「ハンドボール競技」に関する理解を深めるようにする。
- ⑧ 公認審判員としての心構えを教える。
 - 例) 服装、試合の準備の仕方など
- ⑨ 体力テストにおいて、B級審判員の合格ラインである、シャトルランテスト(男子77、女子66)の基準をクリアする。

4 審判指導の基本として

「審判員の倫理綱領」を熟知させ、

- ハンドボールに関わるだけでなく、一般社会における「社会道徳」や「社会規範」について知り、実践する態度を養えるようにする。またハンドボール(審判活動)を通して見聞を広げ、広い視野をもって全日本大会・国際試合で活躍できる人材となれるよう育成する。
- 審判員としての活動によって、「**審判技術の向上**」を図るだけでなく、「**人間性の向上**」が図れるようにする。またハンドボールファミリーの一員として「仲間を尊重」し、互いを認め合うために必要なコミュニケーション力が向上するよう育成する。
- 「教わるという姿勢」を持つことは当然であるが、「自分からチャレンジして発見し学ぶという姿勢」を持って、審判活動だけでなく、「ハンドボール」に関わっていけるようにする。また「仲間と競い合う」ことによって、他者の良い面を発見し、認めあいながら成長できるよう育成する。

A 級公認審判員の目標 (2022 年)



全日本大会の審判員を担当することができるのは A 級, B 級の審判員である。その中で特に A 級審判員には下記の点において期待したい。

- ① 全日本大会のみならず、日本リーグおよび日本選手権へのノミネートを目指し、さらには日本協会指名レフェリーとして認められ、各種大会での模範レフェリーとして活躍する。
- ② 「審判員の心得 10 箇条」を熟知し、人間性を発揮し、大会審判長、副審判長を補佐して、審判団のよきリーダーとして活躍する。
- ③ 試合において立ち居振る舞いはもちろんのこと、事実を正しく見極め、適切な判断基準を元に、的確な判定を下し、TO やオフィシャル、チームとの連携をとりながら試合を円滑に進める。
- ④ ハンドボール競技の特徴を理解した上で、試合の流れやプレーの展開の予期・予測による観察と瞬時の判断力を持つ。

以下に (公財) 日本ハンドボール協会審判本部作成の「レフェリー評価票」をもとに、A 級審判員として追求したいレフェリーの姿とそのポイントを明記する。

評価項目		評価の着眼点	指導のポイント
(1) ゲーム管理・ 運営 (モダン ハンドボール の理解)	レフェリーとしての 要素・全体的印象	試合に関する的確な態度であるか。 タイミングが遅れた介入でゲームを見失ってはいないか。	○競技開始前の準備 ○リーダーシップ
	振る舞い 選手・役員とのコミ ュニケーション	姿勢は正しいか。 「穏やかに」重大な判定を下し、「明確に」チーム役員・プレーヤー・オフィシャルに対し、ボディランゲージや口頭による説明ができてきているか(怒らせる・失礼である・傲慢である・親切過ぎる)。	○レフェリーの人間性 ○丁寧な指示と運営 ○TO, オフィシャルとの連携 ○チーム役員、選手との関係作り
	チームとの関係・平 等であるか	試合に関する感情。公平な態度であるか。 双方にバランスのとれた判定に心がけているか。 一方のチーム役員やプレーヤーと接触していないか。 弁解や妥協しがちではないか。 ヤジとか批判に簡単に影響されていないか。	○コミュニケーションのバランス ○判定のバランス ○放置しない毅然とした対応
(2) 連携	チームワーク (オフ ィシャルを含めて)	誰が見ても分かるように、パートナー・オフィシャルとの協力ができているか。	○目に見えるコンタクトの雰囲気
	ペアで均一な判定	1 人のレフェリーが支配したり、されたりしていないか。	○領域分担と判定者が一致しているか
	領域分担	パートナーの責任範囲を侵していないか。侵していることに気づいているか。	○ゴールエリアライン間際の責任領域はゴールレフェリーである
(3) ゲームの 観察	レベル・カテゴリー に応じた基準	プレーヤーの発達段階を考慮し、ゲームの流れを理解しているか。ゲームの流れに反した判定をしていないか。	○レベルに応じて運用するがルールを変えてはならない
	アドバンテージ・不 必要な笛 発展性のないプレー の見極め 笛のタイミング	明らかで得点チャンスでのアドバンテージを見ているか。 アドバンテージ後の罰則を与えているか。 ルール違反のアドバンテージを与えていないか。 unnecessary 笛でプレーを止めていないか。 発展性のないプレーの見極めと、笛のタイミングは適切か。	○3 歩, 3 秒の保障 ○不要な笛を減らす ○発展性のないプレーの見極め ○2 重のアドバンテージを与えない ○笛のタイミング

評価項目		評価の着眼点	指導のポイント
(4) 1対1の 局面	罰則 8:4にある即座に2 分間退場への準備	各種罰則を適用すべき判断基準を理解しているか。 許容範囲のハードプレーとアンフェアなラフプレー の区別ができていないか。 第8条に一致しない罰則を与えていないか。 スポーツマンシップに反する行為の見極めは妥当 か。	○即座に2分間退場とすべきプレー を適切に見極めている ○試合開始直後からの準備 ○競技終了前30秒間の集中
	チームに基準が理解 されているか	罰則の有無の判断基準が適切か。 罰則がよいバランスで判定されているか	○判定の後のボディランゲージ ○プレーヤーへの基準の伝え方
	ハリウッドアクション の見極め	ハリウッドアクションを見抜き、予防的な処置を含め た、適切な処置ができていないか。	○大きな声、影響と倒れ方の関係 ○心の準備
(5) 攻撃側の 違反	ボールを持ったプレ ーヤーの違反	攻撃側の違反を判定すべき判断基準を理解してい るか。 違反を見逃していないか、探していないか。 正しいブロック/ 不正なブロック 正しい防御活動を認めているか。	○攻撃有利のフリースロー判定が多 くないか
	ボールを持たないプレ ーヤーの違反		○ゴールレフェリーがボールばかり 追っていないか
	正しいブロック/ 不正なブロック		○接触・違反のスタートの見極め
(6) 7mスロー	明らかな得点チャン スの見極め	適切に7mスローを与えているか。 明らかな得点チャンスの判断基準を理解してい るか。	○防御側プレーヤーの位置観察がで きていないか
	ゴールエリア侵入と 影響の見極め	明らかな得点チャンスでないものに7mスローを与 えていないか。	○押し込まれたのエリア侵入を見極 めているか
	ボールを所持してい ない明らかなチャン ス	GK不在の状況での明らかな得点チャンスの見極め。	○違反がなければ明らかな得点チャ ンスになるプレーへの心の準備
(7) 違反	ステップ・ダブルドリ ブル・オーバータ イム・明らかな着地 シュート	正しく判定しているか。 明らかな得点チャンスを妨害され着地してシュート した場合は、7mスローに戻しているか。	○ステップ2歩+2歩の見極め ○ステップを誘発させる防御行為の 見極め
	足を使った違反		○足を使った行為について適切に処 置
	各種スローの判定と 適切な実施		○ポイントの指示 ○正しいスローをしたか ○防御側プレーヤーの位置 ○修正後の再開の笛
(8) 時間の管理 (モダンハン ドボールの理 解)	パッシブプレーの予 告合図のタイミング	適切な判断基準のもとで予告合図のタイミングは適 切か。	○選手交代、各種スローの実施の遅 延に伴う予告合図 ○退場者がいる場合
	パッシブプレーの 判定	違反を判定するタイミング、および判断基準は適切 か。	○ボールを持ったプレーヤーがゴール に向かっていて違反の笛を 吹かない
	的確なタイムアウト ・不要な中断をし ない	ルールに則って両チームに平等に与えているか。 与えすぎていないか。 タイミングが遅すぎていないか。	○タイムアウトを取らなければなら ない場面で適切に対処できているか ○競技時間の短縮を工夫しているか
(9) 動き 位置取り ジェスチャー	動きと位置取り・ 笛をどこで吹くか	2人の死角はないか。 攻撃側と防御側の「間」を観察しようとしている か。 プレーヤー・ボールから目を離してはいないか。 サイドチェンジのタイミングは適切か。	○防御形態に応じた領域分担が臨機 応変 ○レフェリーの基本走法
	明確なジェスチャー ・笛の音	判断基準を適切に説明できる明確なボディランゲ ージを用いているか。 最初に方向指示をしているか。 笛の音は適切か(強弱、長短、軟硬の使い分け)。	○罰則、7mスロー判定の後 ○笛の音色で判定の種類がわかる
	体力・走力	レフェリングをするにあたり、十分な体力を有してい るか。	○コート上でのウォーミングアップ ○後半でも走力が維持できる



B 級公認審判員の目標（2022年）

B級審判員より全日本大会への参加資格が与えられる。国内のトップチームの試合を担当するためには、競技規則に従って試合を運営すること、および試合を運営するための基本となる技術を習得することが必須である。

以下にB級審判員が習得すべき事項について記載する。コート上で1人のレフェリーが主導権を握るレフェリーシステムは、ハンドボール競技には適さない。パートナーと常に連携と相互理解を図り、両レフェリーは様々な状況に関する考え方が一致していなければならない。レフェリーの任務も正しく分担されなければならない。

<試合前>

- 1) トスには指定された時間に両レフェリー、TO が立ち会う。メンバー表、登録証の確認を確実に行う。また、公式記録用紙に正しく記載されているかどうか確認する。
- 2) ユニホームの確認は、必ずTOと協力し行う。色やデザインが判別し難いものは着用させない。レフェリーウエアも判別し難い色は着用しない。相手コートプレイヤーの色とチーム役員の色とが重複しないように呼びかける。また、プレイヤーの装具についても規定にあっているかどうか、TOと協力し、観察しておく。
- 3) ゴールやゴールネット、ボールなどの点検は前もって（選手紹介や選手の確認の前）行い競技開始直前に行わない。
- 4) オフィシャル席の仕事を理解し、シンプルかつ分かりやすく各種の合図をする。試合開始前に必ずオフィシャル席と業務の確認、および機器の操作の確認を行うこと。

<試合開始時>

- 5) 競技の開始時刻を守る。（早く始めない）早めに選手紹介等が終了したとしても、開始時刻が定刻となるようにTD、両チーム役員に開始までの時間を明確に伝える。

<試合中>

○ 得点の管理、時間の管理

- 6) 得点の管理は掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。着地シート等紛らわしい場合、得点が誤って追加されていないか確認する。
また、時間の管理(タイムアウト)は1試合を通して同一の基準で、公平かつ平等に競技規則に則って処理する。どちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。

○ 走法と位置取り

- 7) コート内のプレーヤーとボールから決して目を離さない。
- 8) 得点合図の後、決して2人の位置を交代しない。
- 9) バックステップ走法は動きが遅く、非常に危険を伴うため用いない。
- 10) 走りながら、あるいはプレーヤーに背を向けて方向指示やジェスチャーをしない。判定の後その直後の選手、ボールの動きを必ず確認し、次の行動へ移る。
- 11) ゴールレフェリーは、コート内に立たないことを基本とし、展開に応じて前後左右に移動する。
- 12) 7mスローの際、コートレフェリーはスローするプレーヤーの利き腕側に立つ。
- 13) CP7名の状況で、GKとCPの交代の妨げにならないような位置取りを。

○ 判定の手順、ジェスチャー

- 14) 判定の手順を守る。
①笛 ②方向指示〔再開方法〕 ③(必要に応じ)ジェスチャー
- 15) 正しいジェスチャーを用い、余計なレフェリーのアクションやコミカルな動作は慎む。

○ 立ち居振る舞い

- 16) 2人のレフェリーは、同じ種類の笛を使用する。長い時間、笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたままで、プレーを観察することがないように。
- 17) コート上で腕組み、両手を腰に当てる、ポケットに手を入れる、休めの姿勢など論外。
- 18) 「穏やかに」判定を下し、**全力で違反したプレーヤーやポイントへ駆け寄らない。**

○ 役割分担

- 19) **ピボットプレーヤーの観察は、コートレフェリー、ゴールレフェリーで連携する。**
- 20) **ゴールエリアライン際の判定は、すべてゴールレフェリーが判定する。**
- 21) 領域分担を明確にし、ペアのレフェリーの近くで起こっているプレーに対して、遠い位置から判定をしない。

○ 競技規則の正しい運用

- 22) **警告、退場を判定する際は、その理由をボディランゲージで大きく示す。**
- 23) **競技規則に則った「判断基準」のもとに判定を下す。**
「判断基準」をもとに説明ができる。
- 24) 指し違えたときは、必ずタイムアウトを取り2人で協議する。

<試合終了後>

- 25) 公式記録用紙に正しく記入されているかどうか確認する。



< B 級公認審判員チェックリスト >

◆ 試合前	チェック
1) 両レフェリー、TDが立ち会いのもとスを実施	<input type="checkbox"/>
2) メンバー表、登録証の確認	<input type="checkbox"/>
3) ユニホームの確認（濃淡ははっきりした物：チーム同士、レフェリーウェアとチーム）	<input type="checkbox"/>
4) チーム役員のウェアの確認（相手チームのコートプレーヤーと重複していないか）	<input type="checkbox"/>
5) プレーヤーの装具は、規定に沿ったものかどうかを観察	<input type="checkbox"/>
6) ゴールやゴールネット、ボールの点検（事前に）	<input type="checkbox"/>
7) オフィシャルとの連携（業務の確認、機器操作・動作の確認）	<input type="checkbox"/>
◆ 試合開始前	チェック
8) 定刻でのスローオフか	<input type="checkbox"/>
◆ 試合中	チェック
得点の管理、時間の管理	
9) 得点の管理はできているか（得点のたびに確認しているか）	<input type="checkbox"/>
10) 時間の管理（タイムアウト）は競技規則に則って処理できているか	<input type="checkbox"/>
11) 時間の管理はできているか（目視による公示時計の動作確認）	<input type="checkbox"/>
走法と位置取り	
12) コート上の選手とボールから目を離していないか	<input type="checkbox"/>
13) 得点合図の後に、位置の交代をしていないか	<input type="checkbox"/>
14) ゴールレフェリーへの移動時：バックステップで移動していないか	<input type="checkbox"/>
15) 走りながら、あるいは選手に背を向けて方向指示やジェスチャーをしていないか	<input type="checkbox"/>
16) ゴールレフェリー時：同じ場所に立ち続けていないか（展開に応じて前後左右に移動）	<input type="checkbox"/>
17) 7mスローの際のコートレフェリー：スロアーの利き腕側に立っているか	<input type="checkbox"/>
18) GK不在での攻撃（6人 or 7人）で、レフェリーの位置取りは交代の妨げとなっていないか	<input type="checkbox"/>
判定の手順、ジェスチャー	
19) ① 笛 ② 方向指示 ③（必要に応じ）ジェスチャー の判定の手順を守っているか	<input type="checkbox"/>
20) 正しいジェスチャーを用いているか	<input type="checkbox"/>
立ち居振る舞い	
21) ペアで同じ種類の笛を使用しているか	<input type="checkbox"/>
22) 笛を口にくわえたまま、観察していないか	<input type="checkbox"/>
23) コート上で立ち姿はどうか（ポケットに手を入れる、休めの姿勢になっていないか）	<input type="checkbox"/>
24) 「穏やかに」判定しているか（罰則を出しに行く、ポイントへ行く際、全力で駆け寄っていないか）	<input type="checkbox"/>
役割分担	
25) ピボットプレーヤーと防御プレーヤーの攻防を、ペアで連携し観察できているか	<input type="checkbox"/>
26) ゴールエリアライン際の判定は、すべてゴールレフェリーが判定しているか	<input type="checkbox"/>
27) ペアでの領域分担は明確か（相方の近くで起きたプレーを、遠い位置から判定していないか）	<input type="checkbox"/>
競技規則の正しい運用	
28) 警告や退場を判定する際、その理由をボディランゲージを用いて大きく示しているか	<input type="checkbox"/>
29) 競技規則に則った「判定基準」のもと、判定をしているか	<input type="checkbox"/>
30) 判定をする際、「判断基準」をもとに説明することができるか	<input type="checkbox"/>
31) 差し違えた場合、必ず ①タイムアウト ②ペアで協議 をしているか	<input type="checkbox"/>
◆ 試合中終了後	チェック
32) 公式用紙に正しく記入されているかどうか確認したか	<input type="checkbox"/>

C 級公認審判員の目標（2022年）



C 級審判員は、公式試合（ブロック大会レベル）への参加資格が与えられる。ブロック大会は、各都道府県の代表チームの対戦であり、また全国大会の予選会である場合がほとんどである。

そのような公式試合を担当するためには、競技規則に則って試合を運営すること、および試合を運営するための基本となる技術を十分理解し、実践することが求められる。

また、競技規則の理解においては、競技規則試験において8割以上の正答率（B 級審判員認定に必要）が求められる。

以下に C 級審判員が十分理解し、実践すべき事項について記載する。

<大会への参加>

- 1) 審判会議、代表者会議に出席し、その大会における申し合わせ事項などの共通認識を図る。
出席にあたっては、ブレザー・ネクタイを着用する（本協会制定のものを推奨する）。
- 2) 大会審判員としての自覚を持つこと。所属都道府県の応援をしたり、他のレフェリーの批判をしたりするのは慎む。観衆、チーム関係者に見られていることを忘れない。

<試合開始時>

- 3) トスには指定された時間に両レフェリー・TD が立ち会う。メンバー表、登録証の確認を確実に行う。また、試合開始直前に公式記録用紙に正しく記載されているかどうかを確認する。
- 4) ユニホームの確認を TD と共にする。判別し難いものは着用させない。チーム役員の服装についても助言する。レフェリーウェアも判別し難い色は着用しない。
- 5) ウォーミングアップを選手と共にペアで行う。
- 6) ゴール、コートやボールの点検を行う。
- 7) オフィシャル席と業務の確認を行うこと（得点、罰則、時間の管理について）。

<試合開始時>

- 8) メンバーチェックを登録証とともに確認する。
- 9) 選手入場・挨拶の後、両チーム役員やオフィシャルと挨拶をする。

<試合中>

○ 得点の管理，時間の管理

- 10) 得点の管理は、掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。着地シユート等紛らわしい場合，得点が誤って追加されていないか確認する。
また，時間の管理は試合開始時，タイムアウト時，再開時にどちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。

○ 走法と位置取り

- 11) CRとGRの基本的な立ち位置や動きを意識する。
CRは判定の後にポイントに素早く移動する。
GRへの移動時，バックステップ走法は動きが遅く，非常に危険を伴うため用いない。
- 12) 7mスローの際，コートレフェリーはスローするプレイヤーの利き腕側に立つ。

○ 判定の手順，ジェスチャー

- 13) 判定の手順を守る。
①笛 ②方向指示〔再開方法〕 ③(必要に応じ)ジェスチャー
競技規則に記載されているジェスチャーを用いる。

○ 立ち居振る舞い

- 14) 2人のレフェリーは，同じ種類の笛を使用する。長い時間，笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたまま，プレーを観察することがないように。

○ 役割分担

- 15) **ゴールエリアライン際の判定は，すべてゴールレフェリーが判定する。**
- 16) **ピボットプレイヤーの観察は，コートレフェリー，ゴールレフェリーで連携する。**

○ 競技規則の正しい運用

- 17) **警告，退場を判定した際は，その理由をボディランゲージで大きく示す。**
- 18) 指し違えたときは，必ずタイムアウトを取り2人で協議する。

<試合終了後>

- 19) 試合終了の挨拶（両チーム役員・オフィシャル）をして，公式記録用紙に正しく記載されているのを確認後サインする。
- 20) 大会審判長や他のレフェリーに助言を求める。
審判手帳に記載する。
審判長に捺印をお願いする。

D 級公認審判員の目標（2022年）



D級審判員は、公式試合（都道府県大会レベル）への参加資格が与えられる。公式試合を担当するためには、競技規則に従って試合を運営こと、および試合を運営するための基本となる技術を理解し、実践することが求められる。

また、競技規則の理解においては、競技規則試験において6割以上の正答率（C級審判員認定に必要）が求められる。

以下にD級審判員が公認審判員として理解し、実践すべき事項について記載する。

<試合前>

- 1) 遅くとも、試合開始時刻の1時間前までに会場に到着できるように移動する。
- 2) 大会本部に挨拶をし、控室にて更衣をするなど準備をする。
- 3) トスには指定された時間に両レフェリー、TDが立ち会う。メンバー表、登録証の確認を確実に行う。また、試合開始直前に公式記録用紙に正しく記載されているかどうか確認する。
- 4) ユニホームの確認をする。判別し難いものは着用させない。チーム役員の服の色についても助言する。レフェリーウェアも判別し難い色は着用しない。
- 5) ウォーミングアップを選手と共にペアで行う。
- 6) ゴール、コートやボールの点検を行う。
- 7) オフィシャル席と業務の確認を行うこと（得点、罰則、時間の管理について）。

<試合開始時>

- 8) メンバーチェックを登録証とともに確認する。
- 9) 選手入場・挨拶の後、両チーム役員やオフィシャルと挨拶をする。

<試合中>

○ 得点の管理、時間の管理

- 10) 得点の管理は、掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。着地シユート等紛らわしい場合、得点が誤って追加されていないか確認する。
また、時間の管理は試合開始時、タイムアウト時、再開時にどちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。

○ 走法と位置取り

- 11) CRとGRの基本的な立ち位置や動きを意識する。
CRは判定の後にポイントに素早く移動する。
GRへの移動時、バックステップ走法は動きが遅く、非常に危険を伴うため用いない。
- 12) 7mスローの際、コートレフェリーはスローするプレイヤーの利き腕側に立つ。

○ 判定の手順、ジェスチャー

- 13) 判定の手順を守る。
①笛 ②方向指示〔再開方法〕 ③(必要に応じ)ジェスチャー
競技規則に記載されているジェスチャーを用いる。

○ 立ち居振る舞い

- 14) 2人のレフェリーは、同じ種類の笛を使用する。長い時間、笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたままで、プレーを観察することがないように。

○ 役割分担

- 15) **ゴールエリアライン際の判定は、すべてゴールレフェリーが判定する。**
- 16) **ピボットプレイヤーの観察は、コートレフェリー、ゴールレフェリーで連携する。**

○ 競技規則の正しい運用

- 17) **警告、退場を判定する際は、その理由をボディーランゲージで大きく示す。**
- 18) 指し違えたときは、必ずタイムアウトを取り2人で協議する。

<試合終了後>

- 19) 試合終了の挨拶(両チーム役員・オフィシャル)をして、公式記録用紙に正しく記載されているのを確認後サインする。
- 20) 大会審判長や他のレフェリーに助言を求める。
審判手帳に記載する。
審判長に捺印をお願いする。

レフェリーアセッサーの資質と任務

豊富な経験と実務を積んだアセッサーによる評価は、レフェリーに貴重で積極的なアドバイスとなります。そのため、アセッサーは、確信を持った価値ある評価を提供できるよう努めなければなりません。

また、アセッサーによる評価は、優秀なレフェリー育成・強化に活用されるだけでなく、特にブロック大会以上の場において、レフェリーが所属する都道府県協会との連動も必要となります。

■ 資質

1. レフェリーとして活動した経験。
2. 「競技規則」の解釈と精神の正しい理解と十分な適用能力。
 - レフェリーとしてゲームを観察する能力。
 - レフェリーのパフォーマンスを客観的な視点で捉え、統一されたレベルに基づいて評価できる能力。
 - レフェリーのパフォーマンスの力量と質を正しく認識する能力。
(レフェリーが欠点を是正する上で実用的、専門的な助言となる)
 - レフェリーと共にゲームを分析し、実践的で技術的助言を与える能力。
 - 洗練された評価表を作成する。

■ 任務

1. 少なくともスローオフの1時間前には会場に到着する。
2. 競技規則、ノートと筆記用具を持参する。
 - スローオフ前にレフェリーに会い、簡単な激励をすることがレフェリーと良い関係を保つ要素になる。ただし、試合直前には、審判上の技術的な指示はしない。
 - ゲーム中、レフェリーのパフォーマンスについてノートを取り、試合後の分析と評価に活用する。
 - 励ましとなるレフェリーの良い点をアドバイスする。ただし、ハーフタイムはトラブル等が起こった場合以外行わない。
 - ゲーム終了後、レフェリーのパフォーマンスについて反省を持ち、分析をレフェリーにアドバイスを与える。

■ はじめる前に

一般的にスポーツを指導する人のことを、「コーチ」と呼んでいます。コーチという語源は、元々、ハンガリー北部にあるコチ（kocsi）という町の名前に由来します。もともとコチは、初めてサスペンションを備えた大型四輪馬車が誕生した地として知られていました。この優れた機能を備えて走る馬車は コチ・セケール（kocsi szekér）、つまりコチの馬車と呼ばれ、人や物を輸送するために欠かすことのできない手段でした。馬車の役割（大切な人を、その人が望むところまで送り届ける）として使われていた「コチ」が語源となり、今ではスポーツの世界のみならず、教育現場やビジネス分野においても、コーチは、個人や組織の目標達成を支援する、大事なことを伝える存在として認識されています。

コーチが支援を行う際、その方法は、大きく分けると2つあります。

1つは、Teaching。そして、もう1つは、Coaching です。この2つの簡単な違いは、答えを「教える（ようとする）」か、自分で見つけ出すよう「導いたり支援する」です。

Teaching で答えを持っているのは「教える側」であるのに対し、Coaching で答えを持っているのは、相手となる「受け手側自身」になります。

1. Teaching とは

Teaching では、上下の関係性を伴う「一方向」のコミュニケーションであるため、大人数に一度に指導することが可能であり、相手に方法や価値観の統一を、短時間で図ることが容易となります。

ただし、教える側への依存性が高くなる傾向にあり、モチベーションが下がりがちになってしまうこともあります。また、コーチとなる人物の知識や経験に左右されやすいため、受け手の個性が現れにくくなってしまう可能性もあります。

2. Coaching とは

Coaching では、答えを見つけ出せるよう導くために、お互いが対等な関係性の下で、「双方向」のコミュニケーションとなります。そのため、受け手となる方の構成を活かしつつ、相手の考える力や自主性の向上、可能性を引き出せるよう導くことから、受け手側は、自律することができ、モチベーションも上がる傾向にあります。

ただし、受け手側である相手が、答えを出すのを待つ時間がある程度は必要となります。また、双方向のコミュニケーションが必要であるため、一度に大勢の人に対しての実施は困難となります。

■ ゲーム指導（観察と分析能力）

アセッサーがレフェリーの能力（ゲームコントロール等のパフォーマンス）を判断するためには、レフェリーのパフォーマンスを的確に観察し、分析する能力が必要になります。

アセッサーの試合観察と分析の方法には、大別して次の2通りの方法があります。

1. レフェリーのパフォーマンスを観察することによって良い点を伸張し、欠点を改善する分析を行い、アドバイス（教える）する。
2. レフェリーのパフォーマンスを観察し、評価するために分析をする。

① レフェリングの Teaching

一般的にアセッサーの任務はレフェリングスキルの上達を指導することが重要であり、そのためにはアセッサーのレフェリング分析能力の質が問われます。

レフェリーのパフォーマンスをうまく分析できたならば、倫理的な裏付けを持って指導を行います。スキルや経験の比較的浅いレフェリーには基本的な事項を「Teaching（教える）」することが重要であり、スキルや経験のあるレフェリーに対しては、試合を観戦している観客等を意識した発展的なパフォーマンス指導（プレイヤーマネジメント等）に変化すべきです。また、対象ゲームのみの指導といった短期的な指導の際には、これまでの課題とこれからの課題によって統一的な指導が行えるようにします。

特に注意しなければならないことは、十分なスキルを有していないレフェリーに対して基本的な事項も未完成であるにもかかわらず、発展的なパフォーマンスを指導する（教える）ことによって「絶対的に身につける必要があるレフェリングの基本的な事項」の指導がおろそかになることです。

※ 基本的な事項 → 「競技規則に関連した事項」「競技規則の精神」「位置取り」
「走法」「笛の強弱・シグナル」「ファウルの見極め」
「アドバンテージの解釈」「明らかな得点チャンスの解釈」等

② レフェリングの Coaching

一般的にアセッサーはレフェリングスキルを評価することが重要な任務であり、そのためにはアセッサーはレフェリーのパフォーマンスを分析し、正當に評価する能力が必要になります。

この能力は、レフェリーとして高度なレベルの試合体験をすることが基礎になります。

つまり試合を観察し、分析するためにはプレーヤーが試合の中で行うパフォーマンス（ファウル・不正行為等）も高度にかつ巧妙に行われるものを見極める能力が重要になります。

アセッサーが行う指導は、限られた場所、時間内で有効的に行う必要があるため、Coaching にて指導します。つまりレフェリーのパフォーマンスの中で「ゲームを支配する出来事（鍵になる出来事）」に対して「簡潔に改善のヒント」を与える能力が重要です。

■ レフェリーに対する評価手順（基準）

1. 試合前

- ①レフェリー控室を訪問し、レフェリーと顔を合わせて激励する。
- ②レフェリーは試合前の準備とコンディションの調整中であるので、無駄話を避け、少なくとも選手紹介の15分前には控室を出ること。
- ③コート全体が見渡せることはもちろんのこと、競技場全体が見渡せる位置を確保する（チーム関係者が近くにいない場所）。
- ④レフェリー評価票（またはノート）等に試合中に起こった事項を記入し、ゲーム終了後のミーティングでの指導資料にする。

2. 試合中

- ①レフェリーのゲームコントロール上の要点をメモする。
- ②ゲームコントロール、競技規則の適用面を重点的に注意して観戦する。
- ③レフェリーの長所と短所を記入し、欠点のみでなく、良い点も記入しておくこと。
- ④周囲に観戦者がいる場合には、言動に注意しなければならず、特に重大事項等の場面で観戦者に同調するような表現は絶対に避ける。
- ⑤周囲の観戦者からその試合の場面等に関する質問があった場合は、応答しないのが原則であるが、答えるときは一般論として答える。

3. ハーフタイム

- ①よほどのことがない限り、レフェリーとの接触は持たない（控室が同じでも激励程度にしておく）。
- ②どうしてもアドバイスが必要な場合には、簡単に指摘したい部分のみを指導する。
- ③試合終了後のレフェリーへの指導のため、前半の指導上の要点をまとめておく。

4. 試合終了後

- ①最初に慰労する。
- ②トラブルがあった場合でも、決して試合直後に指摘しない。
- ③レフェリーが落ち着いた後（例えば更衣後）、ミーティングに入る。
- ④トラブルがあり、チーム関係者が質問に来た場合は、レフェリーから事情を聞き、対処する（その時は個人的感情を入れず、競技規則に則った説明をする）。

5. 試合の分析とゲーム終了後のミーティング

- ①関係者以外、ゲーム終了後のミーティングに入れない
- ②一般手順
 - a. レフェリー（ペア）に試合を終えた感想を聞く
 - b. 試合前の課題を聞く
 - c. 課題に対してどうだったか聞く
 - d. 試合での重要事項（7 m T、失格、トラブル）の確認を行う
- ③レフェリーの分析とアセッサーの分析との擦り合わせを行う。
- ④レフェリングの指導を行う（アドバイス・ヒントを与える）。
- ⑤今後の課題と解決方法のヒントを与える。

[方法例]

- ①評価表の記載事項順に指導する。また、そのゲームで課題とした点を指摘し指導する。
- ②欠点のみを指摘するのではなく、まずは良い点を褒める。
- ③特に重大事項（7 m T、失格、トラブル等）の指導に関しては、よく確認をした後に、はっきりと指摘する。併せて改善点も伝える。
- ④断定的に指摘する場合と一般的に指摘する場合を使い分ける。
 - ・ 断定的・・・競技規則の適用間違い 等
 - ・ 一般的・・・レフェリングの判断に関する事項ただし、ハンドボールの常識（Common Sense）に適合したものでなければならない。
- ⑤一つの場면을強調しすぎると、良い場面がなくなるので注意する。
- ⑥レフェリーの任務遂行について、バランスを考えて指導する。特に動きの面を強調しすぎるにより、判断が悪くなる傾向があるので注意すること。
- ⑦特にそのゲームでポイントとなった事象（良い点、悪い点）を指摘し、改善点を指摘するか、その処置が良かったことにより、以後のレフェリングがスムーズに運べたことを指摘し、激励する。

- ⑧最後に必ず今後の課題を指摘して、改善のヒントを与え、良いレフェリングができるように指導する。

6. 評価表の記入

アセッサーが注意すべきことは、報告を行うのは競技規則が正しく適用されたか否かについてであり、アセッサーが同様の状況で取ったであろう行動についてではない。

考慮されるべき点は、レフェリーがその瞬間に取っていたポジションから見たはずのものに対してであって、アセッサーがサイドライン、スタンドから見たものではない。

- ①試合直後に記載するのではなく、時間を置き、考える時間を取ってから評価する。
- ②試合の局面から評価を行い、最終的に全体のレフェリングの流れを考慮に入れて記入する。
- ③客観的事実によって評価する。
- ④特に重大事項以外で1～2回あったことによって、評価を大きく左右しない。
- ⑤試合を大きく決定するような判定ミスや処置を誤った場合は、大きく減点する。
- ⑥項目ごとに指摘や改善点のアドバイスを記入する。
- ⑦コメント欄には、指摘点のアドバイスのみならず、賞賛と激励が公平にバランスよく配置されるように記載する。
- ⑧記入が終われば、必ず記載事項を点検する。

■ レフェリングの分析の方法と指導の観点

レフェリングの分析について大きな目的は、ストロングポイントのさらなる助長、そして課題を明確にして、レフェリーが「気づき」自らが改善点を引き出せるようにサポートします。さらには次の試合に向けて高いモチベーションになることが期待されます。

アセッサーには細かい点にこだわるのではなく、レフェリーの総合的なパフォーマンスにおける特徴や傾向の見極め、または試合の雰囲気や選手の温度、意図を感じられる観察力、そして必要な場面で求められる適切なマネジメントをアドバイスできる知識の深さなどが求められます。

1. 分析において考慮すべき点

①判定面

罰則を含めたスタンダードの確認。判定は公平で基準は一貫していたか。

②アドバンテージ

適格な適用と事後処理はできていたか。

③ポジショニング

特に重要な判断を求められた場面や判定にミスが見られたときのポジショニング、カウンターアタックに対してのスプリントが使われていたか

④監視すべき点

エリア際でのポジション争い、各種スローの位置、DFの距離の監視が確実に行われていたか。

⑤マネジメント

カードの出し方や選手に注意を与えるときに適切なコミュニケーションが取られているか。反則を繰り返す選手に気づき、予防に努めていたか。意義や不満を示す選手への気づきはあったか。スピーディーなコントロールが意識されていたか。

⑥パーソナリティー

迷いのない早い判断、笛の長短強弱、立ち居振る舞い等、確固としたパーソナリティーが確立されていたか。

⑦ペアとの協力

アイコンタクトが取られ、ペアの判定に適切に対応でき、役割分担ができているか。

2. 指導の方法と留意点

①指導の前に、自身の評価表を振り返る時間を取ります。そして、担当レフェリーが次の試合へのモチベーションとなるべく、どのように進めていくのかポイントを絞り、プランを考える。その際、ポイントは別紙に書き出し、またマーカーなどでストロングポイントや改善点を色分けして整理しておきます。

②ストロングポイントは、レフェリーをポジティブな気持ちにさせることであり、小さい点でも良いので少なくとも2、3点は取り上げるようにします。

③改良点としては、個々の判断やマネジメントを確認するのではなく、総合的に見て不足していた点（傾向）を取り上げます。また、7mTや失格など、重要な判定が求められた場面があれば確認をします。

④分析の時間は長い時間にならないよう、上限30分を目安に行ってください。

- ⑤まず、担当レフェリーのコメントからスタートし、レフェリー自身が疑問に感じていた場面は振り返るようにします。
- ⑥改善点は「なぜ」そのような判断や対応を取ったのか、考えを述べさせます。次に改善するためには何を考慮すべきか、アセッサーがうまくリードし、気づきのヒントを与え、本人の言葉で引き出せるようにします。決め付けたアドバイスは避けてください。
- ⑦レフェリーからの質問を受けた後、総合的なパフォーマンスを再度振り返ってまとめます。その際も必ずストロングポイントには触れ、ポジティブな気持ちで次の試合へ臨めるよう導いてください。

■ 評価表への記入について

- ①試合前に評価票の上部の必要事項を記入します。
- ②試合中は、レフェリーのパフォーマンスのチェックを他のノート等に記入します。
- ③試合終了後、ミーティングをどのように進めるか整理をしながら、評価表のアセッサーコメント欄にそれぞれの項目について記入します。
- ④まず、ミーティングで必ず、全体についてレフェリーに感想を述べさせます。
- ⑤次に全体でのレフェリーの感想についてコメントをお願いします。
- ⑥次にアセッサーの気になった点について、レフェリーに質問してください。
- ⑦レフェリー、アセッサー両方のコメントの擦り合わせを行いながら、アドバイスを行います（アドバイスについては、レフェリーの分析の方法と指導の観点に沿って）。
- ⑧レフェリーとのミーティングが終了後、評価表を記入します。
- ⑨一方的な見方での評価でなく、レフェリーとのミーティングを踏まえての評価を行ってください。
- ⑩レフェリー評価の欄は、点数ではなく、コメントで記入します。
- ⑪レフェリーへのコメントは、ミーティングでアセッサーがレフェリーに行った、全体的なアドバイスの内容を簡単に記入してください（今後の課題も含む）。
- ⑫全て記入後、再度見直しを行います。
- ⑬日本協会 競技・審判本部に提出してください。

【A・B級審査会の評価の要点について（2022年）】

【評価のポイント】 心技体を総合評価

1. 人間性：礼儀や態度（競技規則筆記試験の結果も真面目かどうかを反映）

- ・コート上でのおだやかな振る舞いと、毅然としたボディーランゲージ
- ・大会の構成員としてのレフェリーグループ、仲間、チームとは？

2. 技術：レフェリーの仕事の目的は？

- ① **首尾一貫性**：最初の15分間とは？
 - ・ 競技開始の直後でも、即座に2分間退場・レッドカードを出せる準備
 - ・ プレー（特に相手に対する動作）に対して、明確な基準を知らせる
 - ・ Prevent Action（これ以上はさせない、予防的な動作）
- ② **バランス**
 - ・ 両チームへの基準のバランス
 - ・ 両チームへのコミュニケーションのバランス
 - ・ 両レフェリーのバランス
- ③ **笛の音色**：プレーヤーや観衆にとって重要。目が不自由な観衆も存在する。
 - ・ スピーディーなハンドボールを演出するために判定のジェスチャーより大切
 - ・ 強弱長短を使って表現
- ④ **プレー評価**：特にナイスディフェンスにより惹起されたオフenseのミス
 - ・ 防御側の権利の保障。ルールは「攻撃側」「防御側」に平等に存在する
 - ・ 安易に「攻撃側」有利な、フリースローハンドボールにしていないか
- ⑤ **罰則の適用**：相手に対する動作とスポーツマンシップに反する行為
 - ・ 危険につながる行為（注意・YC）を見極め、危険行為（結果的に相手の安全を軽視する行為＝2分間退場、RC）を排除。
 - ・ Prevent Action（これ以上はさせない、予防的な動作）
 - ・ 真の教育的配慮とは？
 - ・ 競技の本質を根底から覆すような行為（シミュレーション、目隠し、ウイングポジションにおける防御側のロングステップ等）を排除
- ⑥ **位置取り・立ち居振る舞いと領域分担**：審査会における急造ペアでも常識的な範囲で
 - ・ セット攻撃時の姿勢と観察位置 = 攻防の「間＝ボール」を観察できる位置を
 - ・ 速攻（リスタート、ターンオーバー）時の走路・走法と観察位置 → 特に重要！
 - ・ 正しいジェスチャー（オリジナリティは不要）
 - ・ 領域分担の考え方（ボールの有無、ゴールエリア際、ピボットの観察）
 - ・ 領域分担を基本に、両レフェリーで連携し正しい判定を導く
- ⑦ **ミス**：基準ではない（ミスはあくまでミス）
 - ・ Small Potatoes と Big Potatoes
 - ・ 大きなミスをしないためのゲームコンディション

3. 体力：日頃のトレーニングの成果を！仲間意識をもって励まし合いながら！

【上達のために】審判員の倫理綱領に従えば自ずと道標は …

審判員の倫理綱領

レフェリングは、競技中の判定はもとより、
ハンドボール競技の進歩・発展に寄与するものであり、
レフェリーは責任の重大性を認識し、
ハンドボール競技への情熱を基に、すべての人に奉仕するものである。

1. レフェリーは生涯学習の精神を持ち、常にハンドボール競技の正しい理解とレフェリング技術の習得に努めるとともに、その進歩・発展に尽くす。
2. レフェリーは任務の尊厳と責任を自覚し、教養を深め、人格を磨くよう心掛ける。
3. レフェリーはプレーヤーや監督の人格を尊重し、あたたかい心で接するとともに、レフェリング内容について理解と信頼を得るように努める。
4. レフェリーは互いに尊敬し、ハンドボール競技関係者と協力してレフェリングに最善を尽くす。
5. レフェリーはレフェリングの公平性を重んじ、レフェリングを通じてハンドボール界の発展に尽くすとともに、競技規則・諸規程の遵守および秩序の形成に努める。
6. レフェリーはレフェリング活動にあたって、営利を目的としない。

(公財) 日本ハンドボール協会 審判本部

レフェリー評価票の記入方法について

総合的な評価						
レフェリーの総合評価は	<input type="checkbox"/> とても良い <input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 概ね良い <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> ほぼ適切 <input type="checkbox"/> やや不十分 <input type="checkbox"/> 不十分					
このゲームは(難易度)	<input type="checkbox"/> とても難しい <input type="checkbox"/> 難しい <input type="checkbox"/> やや難しい <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 簡単 <input type="checkbox"/> レフェリーがゲームを難しくしてしまった					
なぜ難しかったか	<input type="checkbox"/> 結果・得点経過 <input type="checkbox"/> ベンチの振る舞い <input type="checkbox"/> 観客の影響 <input type="checkbox"/> スピード <input type="checkbox"/> 戦術 <input type="checkbox"/> 違反行為 <input type="checkbox"/> その他(下欄に具体的に記入)					
項目ごとの評価		とても良い	良い	適切	不十分	コメント (優れている点・改善すべき点など)
(1) ゲーム管理・運営(モダンハンドボールの理解)	レフェリーとしての要素・全体的印象					
	振る舞い・選手・役員とのコミュニケーション					
	チームとの関係・平等であるか					
(2) 連携	チームワーク(オフィシャルを含めて)					
	ペアで均一な判定					
	領域分担					
(3) ゲームの理解	レベル・カテゴリーに応じた基準					
	アドバンテージ・不必要な笛・発展性のないプレーの見極め・笛のタイミング					
(4) 1対1の局面	罰則・8:4にある即座に2分間退場への準備					
	チームに基準が理解されているか					
	ハリウッドアクションの見極め					
(5) 攻撃側の違反	ボールを持ったプレーヤーの違反					
	ボールを持たないプレーヤーの違反					
	正しいブロック / 不正なブロック					
(6) 7mスロー	明らかな得点チャンスの見極め					
	ゴールエリアへの侵入と影響の見極め					
	ボールを所持していない明らかなチャンス					
(7) 違反	ステップ・ダブルドリブル・オーバータイム・明らかな着地シュート					
	足を使った違反					
	各種スローの判定と適切な実施					
(8) 時間の管理(モダンハンドボールの理解)	パッシブプレー予告合図のタイミング					
	パッシブプレーの判定					
	的確なタイムアウト・不要な中断をしない					
(9) 動き 位置取り ジェスチャー	動きと位置取り・笛をどこで吹くか					
	明確なジェスチャー・笛の音					
	体力・走力					
レフェリーへのアドバイス ・ 特記事項など						

- 現在国内で使用している「レフェリー評価票」は、IHFで使用しているものと同様である。2016年2月、香港にて行われたAHFチーフレフェリー・TDセミナーにおいて、その記入の仕方について、下記の通り具体的に説明がなされた。国内の上級審判員審査会および、全日本大会審判員評価においても、この評価票を使用し、審判員へのフィードバックおよび指導に役立てていく。

※ カラーの網掛け箇所に関し、基本的には評価票内の同色欄と関連させています

1 「レフェリーの総合評価」

7段階で評価する。以下にその基準を示す。

評価項目の(1)~(3)は、審判員としての基本姿勢に関わる大切な項目である。全日本大会審判員(A級・B級)評価においては、(1)~(3)の項目において「適切」以上の評価がつくことが条件となる。また、**A級審査においては、(1)~(3)の項目において「良い」が2つ以上つくことが条件**となる。

(1) とてもよい……トップレフェリー、指名レフェリーに求められる

- レフェリーの判定ミスがほとんどなく、ゲームに影響を与えていない。
- 基準がとても明確で理解しやすい。
- ペア間でのバランスがよい。
- **素晴らしいゲーム運営がなされており、明らかにレフェリーが受け入れられている。**

(2) 良い……A級審判員の合格ライン(2017年改訂)

- レフェリーの判定ミスが少ししかなく、ゲームに影響を与えていない。
- 基準が理解しやすい。
- **すべての項目において、「不十分」の評価がつかないこと**
- **(1)~(3)の項目において、「良い」の評価が2つ以上つくこと**
- **(4)~(9)の項目において、「良い」の評価が3つ以上つくこと**
- **適切なゲーム運営がなされており、レフェリーは概ね受け入れられている。**

(3) 概ね良い……レフェリーコースの合格ライン(2017年改訂)

- レフェリーの判定ミスが少しあるが、ゲームに影響を与えていない。
- 基準にややぶれがあるが概ね理解しやすい。
- レフェリングの「評価項目」(4)~(9)の中で、**不十分な項目が1つ**しかない。(例：(4) 1対1の局面、罰則 等)
- **「項目ごとの評価」(1)~(3)において「適切」以上の評価がつく。**

(4) 適切……全日本大会審判員・B級審判員の合格ライン

- レフェリーの判定ミスは少しあるが、ゲームに影響を与えていない。
- 基準にぶれがあるものの、試合の流れには影響を与えていない。
- レフェリングの「評価項目」(4)~(9)の中で、**不十分な項目が2つ**ある。(例：(4) 1対1の局面、罰則、(7) 違反、ステップ 等)

- 「項目ごとの評価」(1)~(3)において「適切」以上の評価がつく。

(5) ほぼ適切

- レフェリーの判定ミスは多いが、試合結果には大きな影響を与えていない。
(例： 点差の開いた試合 等)
- 基準のぶれが大きく、一貫していない。
- レフェリングの「評価項目」(4)~(9)の中で、不十分な項目がいくつかある。
(例： 罰則、ステップ、攻撃側の違反 等)
- 「項目ごとの評価」(1)~(3)において「適切」以上の評価がつく。

(6) やや不十分

- レフェリーの判定ミスは多いが、試合結果には大きな影響を与えていない。
(例： 点差の開いた試合 等)
- 基準のぶれが大きく、一貫していない。
- レフェリングの「評価項目」(4)~(9)の中で、不十分な項目がいくつかある。
(例： 罰則、ステップ、攻撃側の違反 等)
- 「項目ごとの評価」(1)~(3)において「不十分」の評価がつく。

(7) 不十分……初心者、未経験のレフェリー

- レフェリーの判定ミスが多い。
- 多くの判定ミスが明らかに試合結果に影響を与えている。
- 基準のぶれがとても大きい。
- レフェリーの勝手な判断が、ゲームに影響を与えている。
- レフェリーはゲームを理解していない。
- 明らかにレフェリーがゲームをコントロールできていない。

2 「項目ごとの評価」4段階

(1) とても良い

- 申し分がなく、判定ミスがほとんどない。

(2) 良い

- 概ね満足できる、基準のぶれが少なく、チームにも受けいれられている。

(3) 適切

- 判定ミスがあり、改善は必要であるが、基準のぶれは少なく、チームにも受け入れられている。

(4) 不十分

- 判定ミスも多く、基準が受け入れられない。改善を要する。

3 「コメント」

- ◆ 別紙「**レフェリー評価に関する着眼点**」を参考に、レフェリーに対して今後改善を要する点について具体的に記載する。
- ◆ **上級審査会においては、審査に合格・不合格した理由について具体的な記載**があるとよい。レフェリーにとって今後何を努力していくべきなのか明確にし、指導・および評価の一体化を図る。
- ◆ 評価票裏面については、審査の際メモとして使用する程度で活用し、必要に応じて指導に役立てる。

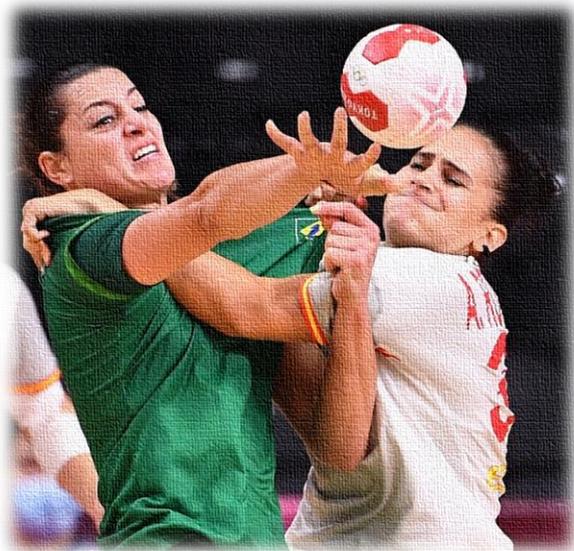
4 「ゲームの難易度」

- 試合全体を客観的に観察して、難易度がどうであったかをチェックする。
- 「とても難しい」「難しい」「やや難しい」についてはその理由としてあてはまる項目をチェックする（複数可）。
- 「レフェリーがゲームの流れを作った」は意図的な介入があったと疑われる場合にチェックする。

レフェリー評価における着眼点（朱書きは重要ポイント）

項	目	着 眼 点
(1) ゲーム管理・運営 (モダンハンドボールの理解)	レフェリーとしての要素・全体的印象	試合に関する的確な態度であるか。正しい判断基準に基づいた的確な競技規則の運用ができていないか。
	振る舞い・選手・役員とのコミュニケーション	不自然な、不安定な態度ではないか。集中力を欠いているような仕草が見えないか。チーム役員・プレーヤー・オフィシャルに対し、基準を明確に伝えるようボディランゲージや口頭による説明ができていないか。ベンチ管理(交代プレーヤー・チーム役員)。
	チームとの関係・平等であるか	試合に関する感情。おだやかで公平な態度であるか。一方のチーム役員やプレーヤーと接触していないか。弁解や妥協しがちではないか。ヤジとか批判に簡単に影響されていないか。
(2) 連携	チームワーク(オフィシャルを含めて)	誰が見ても分かるように、パートナー・オフィシャルとの協力ができているか。
	ペアで均一な判定	1人のレフェリーが支配したり、されたりしていないか。ペア間のバランス。
	領域分担	パートナーの責任範囲を侵していないか(特にゴールエリアライン際)。侵していることに気づいているか。
(3) ゲームの理解	レベル・カテゴリーに応じた基準	プレーヤーの発達段階を考慮し、ゲームの流れを理解しているか。ゲームの流れに反した判定をしていないか。
	アドバンテージ・不必要な笛 発展性のないプレーの見極め 笛のタイミング	明らかな得点チャンスでのアドバンテージを見ているか。アドバンテージ後の罰則を与えているか。ルール違反のアドバンテージを与えていないか。不要な笛でプレーを止めていないか。発展性のないプレーの見極めと、特に攻防が切りかわる笛のタイミングは適切か。
(4) 1対1の局面	罰 則 8 : 4にある即座に2分間退場への準備	許容範囲のタフなプレーとアンフェアなプレーの区別ができていないか。ルール8(違反・スポーツマンシップに反する行為)に一致しない罰則を与えていないか。
	チームに基準が理解されているか	罰則が良いバランスで判定されているか。
	ハリウッドアクションの見極め	ハリウッドアクションを見抜き、予防的な処置を含めた、適切な処置ができていないか。
(5) 攻撃側の違反	ボールを持ったプレーヤーの違反	違反を見逃していないか、探していないか。正しい防御活動を認めているか。また、明確なボディランゲージでプレーヤーへ基準を知らせているか。
	ボールを持たないプレーヤーの違反	
	正しいブロック/不正なブロック	
(6) 7m スロー	明らかな得点チャンスの見極め	防御側プレーヤーとの位置関係から、明らかな得点チャンスを見極め、適切に7mスローを与えているか。明らかな得点チャンスではないにもかかわらず7mスローを与えていないか。
	ゴールエリアへの侵入と影響の見極め	
	ボールを所持していない明らかなチャンス	
(7) 違 反	ステップ・ダブルドリブル・オーバータイム・明らかな着地シュート	正しく判定しているか。明らかな得点チャンスを妨害され着地してシュートした場合は、7mスローに戻しているか。
	足を使った違反	
	各種スローの判定と適切な実施	各種スローが正しく実施されているか。3mの距離を観察できているか。修正後の処置は適切か。
(8) 時間の管理 (モダンハンドボールの理解)	パッシブプレー予告合図のタイミング	判断基準に則り、予告合図のタイミングは適切か。
	パッシブプレーの判定	違反の判定のタイミングは適切か。
	的確なタイムアウト・不要な中断をしない	ルールに則って両チームに平等に与えているか。与え過ぎていないか。遅過ぎないか。
(9) 動き位置取り ジェスチャー	動きと位置取り・笛をどこで吹くか	2人の死角はないか(プレーヤー・ボールから目を離していないか)。サイドチェンジは適切か。
	明確なジェスチャー・笛の音	ルールブックにないジェスチャー、はっきりしないジェスチャーを用いていないか。最初に方向指示をしているか。笛の音は適切か(弱すぎる・大き過ぎる・挑発的など)。
	体力・走力	レフェリングをするにあたり十分な体力・走力を有しているか。

★ カテゴリーごとの モダンハンドボール運用の実際



高体連

1. イエローカードの使い方

高校卒業後は一般カテゴリーと同等に扱われることから、基本的にはモダンハンドボールの考え方を適用させる。ただし、発達段階（体格）の差により違反による影響度が見られる（退場までではない）場合や、経験の差により新人大会や大会序盤（1・2回戦等）で口頭指示やボディランゲージでの伝達が難しい場合は、イエローカードを使用し違反行為をチームに理解させる必要がある。直接の退場・失格プレーの判定基準は変わらないので現象が発生したならば機械的に判定するが、許容範囲を伝え理解させ退場・失格プレーをさせないために、試合序盤（前半の中盤頃まで）の時間帯でイエローカードが増えることがあっても良い。前半終盤や後半は身体接触に対するイエローカードを使用しないことはモダンハンドボールの考え方と同じであるが、得点後のイエローカードはできるだけ判定しないという努力目標としたい。

（参考例 イエローカードの数の目標「新人大会＞選抜大会＞
インターハイ」「地区大会＞都道府県大会＞全国大会」「1・2回戦＞
・・・＞決勝」）

2. 負傷者への対応

基本的にはモダンハンドボールの考え方を適用させる。ただし、選手の安全を最優先するため、負傷の状況によっては選手の意思確認前にタイムを取ることと役員の入場を認める。



中学生専門委員会

中学生カテゴリーに応じたモダンハンドボールの適用について

2021年3月27日
(公財)日本ハンドボール協会
中学生専門委員会

モダンハンドボール

近年のハンドボール競技の特徴

- ☆ 激しいボディー**コンタクト**
- ☆ **スピーディー**なゲーム展開

モダンハンドボールが展開されるために・・・

- ☆ 『**コンタクトプレーを正しく見極める**』
ハードプレーとラフプレーの見極め（競技規則 8：1～8：3）
- ☆ ゲームの流れを優先し、笛の数を減らす安易にゲームを中断しない

中学生カテゴリーにおいても、モダンハンドボールが展開されていくようにする

シニアレベル

中学生カテゴリー

ハードプレーとラフプレーの見極め
(競技規則 8：3)

- ・ ボディーコントロールは…？
- ・ プレーヤーへの影響は…？
- ・ ボールを対象にしたプレーだったか…？
- ・ 不利な位置からの接触（横から後方から）は、

・ 違反を受けたが、影響がないためボディーコントロールを失わず、シュートを打ち切った → ゴールイン
罰則不要 ノーゴールでも継続

（ ゲームの流れを重視し、口頭での注意等
チーム・プレーヤーへ基準を伝える ）

・ 引き倒されたが、その違反に対する影響が小さかったため、ゴールイン **罰則不要**
ゲームの流れを優先するために、中断せず笛の数を減らし、プレーヤーに口頭で注意
クイックスローオフの機会を奪わない

・ コート上で負傷して治療行為を受けた場合、速やかにコートから出る
自チームが 3 回の攻撃を終えた後、コートに戻る事ができる

・ 競技規則 8:4 に該当する行為は、口頭での注意やイエローカードではなく、即座に 2 分間退場を判定する
8:5 に該当する行為は、失格とする

・ 違反行為とその影響を正しく見極める
違反の強度は…？
本当に影響はなかったのか…？

状況に応じ、段階的罰則が必要になる
状況に応じ、ノーゴールであれば、7m+ を判定する必要がある

・ どこまでが許され、どこから許されない
なぜ、許されるのか、許されないのかを段階的罰則を有効に活用して**丁寧に教えながら伝えていくことが大切**
前半では、試合の流れを中断してでも基準（許容範囲）を伝えていく必要あり

状況に応じ、クイックスローオフを成立させないこともある

・ コート上での負傷者に関する競技規則は、適用しない
時計を止めるタイミングはシニアレベルと同じように対応する

・ 中学生カテゴリーにおいても、試合開始直後であろうが、競技規則 8:4 8:5 に該当する行為については適切に対処する（即座に 2 分間退場・失格）

シニアレベル

中学生カテゴリー

ハードプレーとラフプレーの見極め
 (競技規則 8 : 3)
 ・ ボディーコントロールは…?
 ・ プレーヤーへの影響は…?
 ・ ボールを対象にしたプレーだったか…?
 ・ 不利な位置からの接触 (横から後方から) は、

経験、競技規則の理解が浅い中学生
 心身ともに発達段階の中学生

実態を踏まえて

中学生目線にたったレフェリングの実際

・ プレーヤー、コーチと
 コミュニケーション
 ボディーランゲージ (Body Language)
 根拠を適切に口頭で説明

・ コミュニケーションの図り方、
 ボディーランゲージ (Body Language)
 口頭での説明 等を工夫していても十分に伝わりき
 らないことがある



シニアレベルよりも、丁寧に伝えていく手段として、
 試合の流れを重視しながらも、段階的罰則を有効に活
 用する口頭での注意はもちろん、最大3枚の「イエロ
 ーカード」と「即座に2分間退場」を有効に活用し、
 前半で基準を伝える

ただし、後半は原則として身体接触を伴う違反のイエ
 ローカードは使用しない

※ 前半で基準を伝えていることが前提

試合の流れを中断してまでも基準を伝える場合は、口
 頭の注意で済ませるのではなく、イエローカードを活
 用する

※ オールドスタイル (6枚のカード) で
 レフェリングするという意味ではない

良いプレーを保証 悪いプレーを排除



プレーヤー、コーチ、観衆、レフェリー、役員、
 補助役員等 すべての関係者が基準を理解している



前半は、シニアレベルよりも時間を要することもある
 が、結果的にゲームがスムーズに流れる



笛数が減り、安易にゲームが中断されない



中学生カテゴリーに応じたモダンハンドボールが展開される

中学生カテゴリーに応じたモダンハンドボールの構想図

○ゲームを通して	スローオマ	25分	50分
○大会を通して	1回戦 地区	2回戦 都道府県 ブロック
			final 全国
○年間を通して	春全中 (3月)	全国クラブ (8月)	全中 (12月)
			JOC

時間の経過、大会が進むにつれて、基準が明確でスピー
 ディーなモダンハンドボールが展開され、中学生が安
 心して力いっぱいハンドボールを楽しんでいる

【レフェリーアセスメント報告書 記入例】

※ レフェリーへのアドバイス内容を記載

小学生専門委員会

小学生カテゴリーに応じたモダンハンドボールの適用について

2021年4月17日
(公財) 日本ハンドボール協会
小学生専門委員会

モダンハンドボール

近年のハンドボール競技の特徴として、
「激しいボディークontakt」「スピーディーなゲーム展開」

チーム・選手として

「正しい競技規則の理解」「許される行為と許されない行為の理解」

レフェリー×指導×強化＝

レフェリーとして

「ハードプレーとラフプレーの見極め」「競技規則の適切な運用」
「ゲームの流れを優先し、笛の数を減らす（安易な競技の中断はしない）」

⇒ 「スピードハンドボール」
「パワーハンドボール」

スピードハンドボール・パワーハンドボールを目指すために、
小学生カテゴリーにおけるモダンハンドボールを展開する。
特に小学生カテゴリーにおいては、より丁寧な判定等が必要になる。



小学生の目線に立って

《口頭における分かりやすい伝え方》
《分かりやすいジェスチャーの使い方》
《次に違反が起こらないような効果的な段階的罰則の適用》

特に、小学生カテゴリーは以下の3点について意識しながら、レフェリングに努める。

- ① 競技規則8の4（即座に2分間退場を判定すべき違反行為）については、試合開始直後であっても即座に2分間退場を判定する。
- ② 得点後であっても段階的罰則（イエローカード）を提示し、口頭での説明とジェスチャーを用いて判定の理解を促す。
- ③ 競技規則8の3～6に関する、後半（前半終了間際）のイエローカードはない。前半で許される行為と許されない行為の基準を明確にする。

シニア・大学カテゴリー	小学生カテゴリー
【モダンハンドボールへの確立】 ・ 前半のうちに基準（許容範囲）を示す。 ⇒ インフォメーション・ボディークラッシュ・ 段階的罰則を用いて選手と役員に伝える。	【モダンハンドボールへの発展】 ・ 前半のうちに基準（許容範囲）を示す。 ⇒ インフォメーション・ボディークラッシュ・ 段階的罰則を用いて選手と役員に伝える。

<ul style="list-style-type: none"> ・ ボディーコントロールができていれば、得点後や GK スローとなった際、あるいは前半終了間際からのイエローカードは適用しない。 ・ チームで3枚のイエローカードを出す必要はない。 <p>⇒ クイックスローオフや GK スローを中断させるなど、ゲームの流れを止めない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 競技規則 8 の 4 に該当するプレーは、イエローカードが提示されていなくても、即座に2分間退場を判定すべき違反行為として、2分間退場にする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ コート内で負傷者が出た場合、競技規則 4 の 11 により、救護のためにチーム役員等を2名まで入場許可を与えることができる。 ・ コート上で治療行為を受けた場合は、速やかにコートから出て、自チームが3回の攻撃を終えた後、コートに戻ることができる。 ・ ただし競技規則解釈 8 における場合は、3回の攻撃を待たずにコートに戻ることができる。 <p>⇒ ゲームの流れをできるだけ中断させない。また速やかなゲーム再開が望まれる。</p>	<p>※小学生の目線に合わせた伝え方を工夫する。</p> <p>罰則を適用するだけでは、十分ではない。小学生にとって分かりやすい言葉を用いる。また役員から選手全体に伝えてもらうなどする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボディーコントロールができているように見えるが、横から軽度の接触があった場合や今後のゲーム展開によっては重大な怪我や事故に繋がると思われる場合は、イエローカードを適切に用いて事故防止や怪我防止に努める。 <p>※得点後や GK スローであってもイエローカードを示すこともあり得る。</p> <p>※後半（前半終了間際）は、それまでに基準（許容範囲）が示されていることからイエローカードは適用しない。</p> <p>⇒ 中断させても選手に伝えることが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 競技規則 8 の 4（即座に2分間退場を判定すべき違反行為）に関しては、シニアも小学生も関係なく、2分間退場を判定すべきである。 <p>※2分間退場の際も大きくジェスチャーをするとともに違反内容など分かりやすく短く伝えることが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コート内で負傷者が出た場合、競技規則 4 の 11 の2段落は適用しない。よって自チームの3回の攻撃を待たずにコートに戻ることができる。 <p>（ゴールキーパー・コートプレーヤー同様）</p> <p>※プレーヤーの頭部や顔面等にボールが当たった場合など、ボールの行方を見てからタイムアウトを取る。</p> <p>※ただし、攻撃チャンスの場合は、攻撃を認め、チャンスを失った場面でタイムアウトを取る。</p> <p>※その後、チーム役員等に入場許可を与え、負傷者が競技の続行ができるかの判断をしてもらう。（選手の判断ではない）</p> <p>※安全確認や救護の際も速やかなゲーム再開に努める。（モダンハンドボールに繋がる）</p>
---	---

レフェリー指導用 補助資料



レフェリー 評価票 [2022全日本大会用]

氏名・ペア名	/	所属	期 日	年 月 日	
大会名				会 場	
評 価 者	印	対戦	vs	男・女 結果 :	
総合的な評価					
レフェリーの総合評価は	<input type="checkbox"/> とても良い <input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 概ね良い <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> ほぼ適切 <input type="checkbox"/> やや不十分 <input type="checkbox"/> 不十分				
このゲームは (難易度)	<input type="checkbox"/> とても難しい <input type="checkbox"/> 難しい <input type="checkbox"/> やや難しい <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 簡単 <input type="checkbox"/> レフェリーがゲームを難しくしてしまった				
なぜ難しかったか	<input type="checkbox"/> 結果・得点経過 <input type="checkbox"/> ベンチの振る舞い <input type="checkbox"/> 観客の影響 <input type="checkbox"/> スピード <input type="checkbox"/> 戦術 <input type="checkbox"/> 違反行為 <input type="checkbox"/> その他 (下欄に具体的に記入)				
項目ごとの評価	とても良い	良い	適切	不十分	コメント (優れている点・改善すべき点など)
(1) ゲーム管理・運営 (モダンハンドボールの理解)	レフェリーとしての要素・全体的印象				
	振る舞い・選手・役員とのコミュニケーション				
	チームとの関係・平等であるか				
(2) 連携	チームワーク (オフィシャルを含めて)				
	ペアで均一な判定				
	領域分担				
(3) ゲームの理解	レベル・カテゴリーに応じた基準				
	アドバンテージ・不必要な笛・発展性のないプレーの見極め・笛のタイミング				
(4) 1対1の局面	罰則・8:4にある即座に2分間退場への準備				
	チームに基準が理解されているか				
	ハリウッドアクションの見極め				
(5) 攻撃側の違反	ボールを持ったプレーヤーの違反				
	ボールを持たないプレーヤーの違反				
	正しいブロック / 不正なブロック				
(6) 7mスロー	明らかな得点チャンスの見極め				
	ゴールエリアへの侵入と影響の見極め				
	ボールを所持していない明らかなチャンス				
(7) 違反	ステップ・ダブルドリブル・オーバータイム・明らかな着地シュート				
	足を使った違反				
	各種スローの判定と適切な実施				
(8) 時間の管理 (モダンハンドボールの理解)	パッシブプレー予告合図のタイミング				
	パッシブプレーの判定				
	的確なタイムアウト・不要な中断をしない				
(9) 動き 位置取り ジェスチャー	動きと位置取り・笛をどこで吹くか				
	明確なジェスチャー・笛の音				
	体力・走力				
レフェリーへのアドバイス ・ 特記事項など					

【評価票 記入例】

レフェリー 評価票 [2020全日本大会用]						
氏名・ペア名		所属		期 日	年 月 日	
大会 名				会 場		
評 価 者	高橋 寛 (印)	対戦		vs	(男)・女 結果	
総 合 的 な 評 価						
レフェリーの総合評価は	<input type="checkbox"/> とても良い <input checked="" type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 概ね良い <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> ほぼ適切 <input type="checkbox"/> やや不十分 <input type="checkbox"/> 不十分					
このゲームは (難易度)	<input type="checkbox"/> とても難しい <input checked="" type="checkbox"/> 難しい <input type="checkbox"/> やや難しい <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 簡単 <input type="checkbox"/> レフェリーがゲームを難しくしてしまった					
なぜ難しかったか	<input checked="" type="checkbox"/> 結果・得点経過 <input checked="" type="checkbox"/> ベンチの振る舞い <input type="checkbox"/> 観客の影響 <input checked="" type="checkbox"/> スピード <input type="checkbox"/> 戦術 <input checked="" type="checkbox"/> 違反行為 <input type="checkbox"/> その他 (下欄に具体的に記入)					
項目ごとの評価		とても良い	良い	適切	不十分	コ メ ン ト (優れている点・改善すべき点など)
(1) ゲーム管理	レフェリーとしての要素・全体的印象 振る舞い・選手・役員とのコミュニケーション チームとの関係・平等であるか		✓			ゲーム前の姿が弱い。プレーへの話し が丁寧で選手への指示が的確 でレベルが上がるコントロールが 上手
(2) 連 携	チームワーク (オフィシャルを含めて) ペアで均一な判定 領域分担		✓			腕のグルーミングが上手。持たない の違反判定も的確。判定のスピードも 速い
(3) ゲームの理解	レベル・カテゴリーに応じた基準 アドバンテージ・不必要な笛・発展性の ないプレーの見極め・笛のタイミング		✓			レベルに応じた基準が よく、不必要な笛は少ない と評価できる
(4) 1対1の局面	罰則・8:4にある即座に2分間退場への準備 チームに基準が理解されているか ハリウッドアクションの見極め			✓		→ 採角。持たない側の最良の 見極め
(5) 攻撃側の違反	ボールを持ったプレーヤーの違反 ボールを持たないプレーヤーの違反 正しいブロック / 不正なブロック		✓			攻撃側同士のボールタッチのAPは 判定が厳格で、プレーヤーへの指示も 丁寧。その後のプレーも冷静
(6) 7mスロー	明らかかな得点チャンスの見極め ゴールエリアへの侵入と影響の見極め ボールを所持していない明らかかなチャンス	✓				(VIP) 明らかにゴールへの侵入は 厳格に判定し、プレーヤーへの指示も 丁寧
(7) 違 反	ステップ・ダブルドリブル・オーバータイ ム・明らかかな着地シュート 足を使った違反 フリースロー・スローオフなど		✓			
(8) 時間の管理	パッシブプレー予告合図のタイミング パッシブプレーの判定 的確なタイムアウト・不要な中断をしない		✓			* 違犯中の交代 (6) 予告を示す のが最後の違犯中に判別が難しく ない
(9) 動き 位置取り ジェスチャー	動きと位置取り・笛をどこで吹くか 明確なジェスチャー・笛の音 体力・走力		✓			* フォワードとゴールキーパーの → 違犯中、中央に居るのを 見逃さず、中央に居る(ボール)を 中央に視守
レフェリーへの アドバイス ・ 特記事項など	ボールへの侵入は厳格に判定し、その後のプレーも冷静で、 (吹くバリエーション)も的確で、選手への指示も丁寧 * パスとして扱われるプレーも、その後のプレーも冷静で、 * 常に「最後の事」を想定し、その後のプレーも冷静で、 * 常に「最後の事」を想定し、その後のプレーも冷静で、					



レフェリーアセスメント報告〔2022年度 全日本大会用〕



競技会名		期 日	年 月 日
レフェリー名	/	会 場	
アセッサー	対戦	vs	結果 ー

総 合 的 な 評 価

試合前のMTGにおいて、本人たちの課題について話し合った内容 および その点に関する所見

1) 課題

2) 所見

具体的なアドバイス

① 【 について】

② 【 について】

③ 【 について】

【レフェリーアセスメント報告書 記入例】

※ レフェリーへのアドバイス内容を記載

※ 以下朱書き部分は、アドバイスを受ける側（レフェリー）が知りたい情報の一例となります

レフェリーアセスメント報告〔2022年度 全日本大会用〕（例）							
競技会名	第 〇 回 日本選手権 男子の部			期 日	2022 年 12 月 12 日		
レフェリー名	家永昌樹／福島亮一			会 場	熊本県 山鹿市総合体育館		
アセッサー	高野 修	対戦	vs	男	結果	27-27	
総 合 的 な 評 価							
試合前のMTGにおいて、本人たちの課題について話し合った内容 および その点に関する所見							
1) 課題							
<ul style="list-style-type: none"> ・罰則が取り切れていない、コミュニケーションを取りに行くが伝わらない。 ・試合は流れているが、切りどころ、取りどころがある。 							
2) 所見							
競技運営に関する内容							
<ul style="list-style-type: none"> ・試合では立ち上がりから、Directly 2minについてよく取れており、選手への余計なコミュニケーションをとる必要がなく試合運営ができた。 ・選手達も概ね理解を示しており、Clearな試合管理であった。 ・取るべきをしっかりと取っているため、試合中でのメリハリもついた。国体で言われた、試合は流れているが取るべきものももっとある。に対しても概ね取れていた。課題をしっかりと頭に入れて試合に臨み、試合前のアドバイスを良く実行できたと評価できる。 今後に向けての意欲喚起につながる助言 							
具体的なアドバイス							
①【PVゾーンについて】							
明らかにユニフォームをつかむ行為に対しては、適格に対応できていたが、その前段階で予防ができなかったか？							
PV,DFともに、体と顔はCRを向いている。小さな段階で、CRが位置を取り、両選手の目に入るところに移動し、何も言わなくても「俺は見ているぞ！」と両選手の前に立てば、選手は見られているとわかれば反則はしなくなる。時にはゼスチャーを入れたり、声をかけることも必要。それがコミュニケーションである。そのためにはCRが動くことが重要である。反則を取るだけでなく、反則をさせないことが重要である。							
重点課 PV ゾーンにおける「ペアでの連携」および「BL を用いた予防的行動」に関する内容							
②【笛のタイミングについて】							
審判技術に関する内容							
判定を行う際に、Contact が起こってから、判定を考えている。							
確認⇒判断⇒判定へ移行が遅いため、笛のなるタイミングが遅い場面が見受けられた。							
OFプレーヤーと、DFプレーヤーの接触が起こる前から、両者の位置関係を見ておき、判定の準備に入ることが重要。							
接触が起こる前から、笛を持っている手の位置がどこにあるか？目、頭、笛の事前準備がないために、ベストなタイミングで笛を吹けていない。							
		常にこの状態で待っている。笛が腰元にある。				上体は別として、笛をすぐにふけるように口元の前に用意しておく	
レフェリーの位置取りなど、具体的な場面を写真にして説明している							
③【適切な罰則の適用について】							
突発的に起こる、顔へのAttackに対する対応ができなかった。							
これも同様に、判定の準備、常に何かが起こる可能性があり、準備をすることが重要。							
顔へのAttackに関しては、少なくともDirectに2minの判定ができるように集中力を高めておく必要がある。							
具体的な時間における課題やその改善に対するアドバイス							
43' 47" (AチームのFB) DFは、背中から接触し明らかなシュートチャンスを妨害したが、GRはゴールキーパーをスローを選択。 具体的な競技規則適用に関する助言							
このDFの行為は、①正面で接触を試みていない(8:3 判断基準)、②高速で走っている相手に対する違反(8:4)であり、7mTおよび即座に2分間退場を判定すべきである。							
(ペアレフェリーから、通信機器を介して、正しい判定を促すことも可能な事象であった)							

総 合 的 な 評 価

試合前のMTGにおいて、本人たちの課題について話し合った内容 および その点に関する所見

- 1) 課題
 - ・ペア間での連携を緊密にとれるようにする。
 - ・ハードプレーとラフプレーを正しく見極め、ラフプレーには猶予なく的確に対応する。
 - ・各種スローの実施を適切に管理し、正しい実施の指示には毅然とした態度で臨む。
- 2) 所見
 - ・吹笛のタイミング（プレーの切りどころ）の微妙な違いが前半の途中ぐらまでは見られたが、うまくペア間で調整することができ、後半には全く違和感がなかった。（連携がうまくできていた）
 - ・前半開始早々からPVとDFとのせめぎ合いが続いたが、選手・役員にレフェリーがアピールを続けることと7分08秒時点で黄DF10に退場を判定することで一定収まりをつけたことはよかった。
 - ・開始早々からフリースローの実施ポイントの修正やクイックスタートのやり直しなどを毅然と指示することで、選手がきちんと各種スローを行うとともに審判員への信頼が見えてきて、大変良かった。

具体的なアドバイス

①【コートレフェリーの位置取り について】



CR時に対角地で起こる現象面の判定位置が遠く角度が悪い。（レフェリー-A）

- ・吹笛直後の画像であるが、この時点でCRが画面の中に入らない。
- ・吹笛時の位置が現象場面から遠く、角度が悪い。
- ・現象面の斜め上から視認し、吹笛とともにクラッシュポイントへ移動できるよう位置と角度のアドバイスを行った。

レフェリーの位置取りなど、具体的な場面を写真にして説明する

- ・この時点での吹笛も位置が遠く、また、後ろへ下がりがながらの吹笛となっている。発生事象を予測して前によりながら判定・吹笛すべきとアドバイスを行った。



②【前半15分までのPVとDFとのせめぎ合い について】

- ・試合開始直後から双方のPVとDFとの激しいせめぎ合いが続いた。1分57秒での青PVのファーストシュート時に黄25番DFへの口頭注意など、コントロールに入る意思が見せれば、その後の展開が変わっていったのではないかと。
- ・3分09秒の黄PV10のプッシングを判定していれば、その後の青DFのホールディングは激しくならなかったのではないかと。
- ・4分58秒時の黄得点時、黄PV10の動きがセーフであることを伝えることができれば良かったのではないかと。
- ・6分06秒、黄PV10と青DFとの間で、どちらも腕をつかみ始めている。クラッシュしてグランディングする選手が2人出たが、この時点で試合を止めて介入すべき。危ない。
- ・6分39秒、ベンチに下がった青DF19に対して、CRがベンチまで行き、「つかむな」とアドバイス。監督・青19共にわかったという意味表示をCRに示す。これは大変良かった。
- ・6分53秒、黄DF10と青PV15との接触、転倒にはその時点ですぐに介入し指導すべき。（遅い）
- ・7分06秒の退場判定は良い。しかしその前に上記の6点があればこのプレイは防げた可能性もある。

具体的な時間における課題

③【このカテゴリーにおけるゲーム運営観 について】

カテゴリーに応じた試合運営に関する考察

- ・8対12とホームチーム黄にとって4点ビハインドで始まった後半が、一進一退の末8分06秒で10対15の5点差となった。しかしその後黄は、青チームの攻撃中のミスからの速攻などの連続得点をあげ、10分39秒で13対15と2点差まで追いつけた。その後11分24秒には青PV19のプッシングにより黄の攻撃となるが、セットでの攻撃で攻めあぐねていた。そこで黄のエース17が1対1を利腕と逆へかわしてカットインし、シュートを決める。が、オーバーステップの判定となり、得点にならず。その後16分24秒まで青が得点を重ね13対19とし、ゲームの大勢を決めた。
- ・ゲーム開始早々から黄エース17はインへ流れるプレーを徹底的にマークされ、動きを封じられてきた。ここ一番の勝負所と見たのか、エースの勤か、初めての逆方向へのかわしであった。オーバーステップを判定していなかったらこのゲームはどうなっていただろうか。はたしてオーバーステップの判定は必要だったのか。確かにドリブル後のボールミートをきちんと評価すれば4歩に見える。ホームチームのエースのプレーである。このシーンで厳格にボールミートを見極める必要があったのかどうか。オーバーステップを判定しない選択肢はなかったのか。シニアカテゴリーデビュー戦であった審判員に対してゲーム運営価値観にかかわる提起を行った。

総合的な評価

試合前のMTGにおいて、本人たちの課題について話し合った内容 および その点に関する所見

1) 課題

- ・シニアカテゴリーを初めて担当するということもあり、緊張しないはずはないので、可能な限り今の実力を発揮できるように努める。
助言：良く見せよう、反則を探そう探そうとせず、普段の自分達の通りに吹笛してください。必要があれば通信機で助言をします。

2) 所見

- ・前半15:00頃までは、緊張状態と判定に対して自信が持てず、説得力を欠いた。 **具体的な時間における課題やアドバイスを記載**
- ・アドバンテージやスピーディな流れを重視しようとして、プレーを切るような笛のタイミングを逸したり（前半2:00）、ターンオーバーを吹いてから目を切ってしまう、反則をした選手がボールを置かないようなプレーを見逃してしまった場面（前半7:17）もあった。
- ・ゴールスロー判定後、GRの後ろに転がったボールが回転で戻ってきた。攻撃側のウィングが拾ってシュートを決めた。
GRはゴールインの笛を吹いてしまったが、MOから中断して協議するよう助言した（前10：47～53 レフェリーA）協議して説明後 ゴールスローで再開 得点は無効
- ・前半15:00過ぎてからは、即座に2minのプレーを的確に行い、選手や役員とも判定について丁寧にコミュニケーションを行ってスムーズに運営できた。無事デビューを飾った。

具体的なアドバイス

①【ゴールエリア際のカットインのプレーの判定について】

- ・試合後のミーティングで、今日の試合で多かった2枚目を攻めるカットインプレーについて **具体的な時間における課題やアドバイス**
ファーストコンタクトをしたDFとフォローに来たDFのどちらのどのような反則なのか
1試合通じて、ゴールエリアの外側で接触があって、もつれながらカットインするプレーの判定に今後研究の余地がある。

- 前 3:53 青31のカットイン時 DF白7エリア外で接触→GR 7MT◎（エリア内?）
- 後 2:32 青10のカットイン時 接触はしておらずシュート失敗し負傷し倒れた 白の攻撃が止まった時に
タイムアウト（本当に接触は無かったのか? 救護が必要か、継続か?）
- 後 6:22 青31のカットイン時 シュートは不成功→GR （判定無し）
- 後 10:48 速攻 青11がDFの正面に突っ込むプレー ゴールインGR（チャージングでもいいがCRは遠かったか）
- 後 11:25 青PVアウトカットイン（判定無し）
- 後 12:54 Qスタート 白23のシュートに接触した青30DF（ゴールイン判定）
- 後 28:35 白14のカットイン フォローDF青19がエリアの外で接触→GR 7MT（罰則無エリア内）

②【1対1について】

- ・DFを評価する場面で、フリースローを与える。 **具体的な時間における課題**
- 前 20:55 青11DFに背を向け捕まりに行くプレー（フリースロー判定ではなく、ターンオーバー?）レフェリー A
- 前 21:18 白13にDF青11が腕を掴って掴む（フリースロー判定のみ、罰則が必要?）レフェリー B
- ・プレーを流している時、流した時の伝え方（ゼスチャーをすれば伝わったか?）
選手が負傷や倒れた時に、救護が必要か、続行か?（どの場面で中断するか?）

③【即座に2min判定について】

- ・特に空中にジャンプしている選手に対して、DFが横や後方、正面からでもバランスを失うようなブッシングには、反応もよく正確に判定していた。
- 前 16:15 2min◎ **具体的な時間における課題**
- 前 27:29 2min◎+倒された選手へのケア→反則をした選手へ退場の順も良かった
- 後 3:07 白14DFの頭部への危険なプレー ゴールインの判定後 2min◎
- 後 14:08 白7DFのブッシング 明らかな得点チャンスではない 2min◎
※GRはフリースローのみCRから退場の判定
- ・※ベアで要研究
- 前 29:52 白29DFのブッシング 青10倒れる→得点後白はクイックスタートの準備→レフェリーはタイムアウト
（ブッシングに対しては罰則無し）青監督アピールあり

総合的な評価

試合前のMTGにおいて、本人たちの課題について話し合った内容 および その点に関する所見

1) 課題

この試合のペアとしての目標

- これまでの実績から差がつく試合が予想されるが、判定のバランスに気を付けたい。
- 立ち振る舞いなどでいかにチームを納得させることができるか。→チームとのコミュニケーション

2) 所見

- 判定のバランスについては、両チームに分け隔てなく均一に判定を下しており、概ね問題ないとする。
- 試合中、ベンチや選手に対して積極的に注意や説明を行おうとし、良好なコミュニケーション形成に務めており好感が持てる。

具体的なアドバイス

①【判定のバランスについて】

この試合において、段階罰の適用等に大きな問題はなかったと考える。

重点事項「バランス」に関する考察

ただ一連の流れの中（前半15分まで）で、黄チームに退場が連続し、偏っているのではとベンチを感じる雰囲気になったことは否めない。その間、青チーム側に段階罰を適用すべきプレーがなかったかといえばそうではなく（12分38秒の場面など）、その場面で適用しておけば、その雰囲気もある程度払拭出来たのではないかと考える。

決して段階罰の適用を推奨するものではないが、場面に応じた的確な適用が落ち着いたゲームにつながると考える。

②【ゲームコントロールについて】

今回の試合は女子であったこともあってか、二人とも余裕を持って慌てることもなくゲームを裁くことが出来ていた。

今後、男子のよりスピーディで激しいゲームでも同様のパフォーマンスを発揮されるよう期待する。

このペアであれば十分可能と考える。

③【 について】

総合的な評価

試合前のMTGにおいて、本人たちの課題について話し合った内容 および その点に関する所見

- 1) 課題
- ①インカムを使ってお互いの見えていること、考えていることを積極的に伝え合いながら落ち着いて取り組む。
 - ②リーダーシップを発揮し、特に立ち上がり10分間を丁寧に運営する。
 - ③ペアとしての一貫性を意識する。
- 2) 所見
- ①ペアとしてのコミュニケーションをしっかりと取りながら運営することができ、とても良かった。
 - ②プレーヤーに対して立ち上がりから積極的に声を掛けながら運営できた。
7:04 ターンオーバー判定時にボールを遠くに置いたとする退場とか、攻守の切り替え時にも広く見て対応できていた。
一方、ユニフォーム掴みへの注意を繰り返してしまい、どこからダメなラインなのか示しきれなかった。
 - ③ベンチからのステップの指摘に迷いが生じる場面があったが、試合全体としては良く意識できていた。

具体的なアドバイス

①【PVゾーンについて】

ユニフォームを掴む行為についての注意を繰り返して、選手に伝えきれていなかった。 **審判技術に関する助言**
6:33 FTの場面ではCRから3m注意、GRから同じタイミングで選手の背後に寄って声掛けをしたけれども選手は正面のCRに気を取られていた。CRから選手と目を合わせ、ジェスチャーを添えて説得力を高めたい。

②【ベンチとのコミュニケーションについて】

試合運営に関する助言
ベンチからレフェリーへ声を掛けられる機会がたくさんあったが、退場だとか文句を言われていた訳ではなく、レフェリーが真摯に取り組んでいたからこそ、一緒にいいゲームを作ろうという行為と考えるとよい。決して悪いことばかりではない。吹笛した場所、タイミングによってはジェスチャーを適切にすることによって、「今の判定は何？」という問い掛けは少なくすることができる。特にボールのない場所での判定は、繰り返させないためにもどこで誰が何をしたということをはっきりと表現したい。ベンチからオーバーステップの指摘を受け迷いが生じた場面があったが、試合中であれば引きずらないように次のプレーに集中する。試合後にビデオで確認し判定できなかった原因を確認していけばよい。

③【反省会でのプレーを動画で振り返り】

- 42:10 オーバーステップ見逃しとFB戻し **具体的な時間における課題**
CRはLBとPVとの関係が気になっていて、ボールに目を向けてすぐRBのプレーがありオーバーステップの判断ができなかった。このときビデオには映っていないが白チームの監督はステップをアピールし中央側からサイド側へベンチ内を移動した。その後CBのオーバーステップ判定になったが、GRよりランニングFTとしてシュート前のFBを戻された。黒チームにとってはストレスを重ねる攻防になってしまった。後半の中盤でありレフェリーも疲れてくる時間帯なのでインカムで励まし合ったり、意識して広い視野を持てるようにしたい。
- サイドライン際のプレーに対してライン上への寄り
12:30 黒チーム監督が腕を広げているが自チームのディフェンスへの指示であるのでOK。
CRはスローインの判定後であったためライン近くにいるが、ディフェンスがパスコースをつぶしに行った時点でボールアウトやプッシングを予測してライン上へ寄りたい。監督はもっと近くで見たい…
16:08 パッシングの予告ジェスチャー中の出来事。GRがヤバイと察したのは黒チーム監督のアピール。
GRと黒チームの監督とのやり取りの反対ではサイドシュートが7mTではないかと白チームの監督によるアピールがあった。
パッシング予告の手が上がればOFプレーヤーはガムシャラに前を狙いに来る。だからこそDFファールだけでなく、OFファールも起こり得る。
2人一緒にボールを目で追ってインカムでパスカウントをするだけで安心しないようにしたい。
- 一つの事に気持ちがとらわれてしまうと他の事が見えにくくなってしまいます。上手いかなかった時には原因を探り、つぶしていけば成長できます。
これからも課題意識を持って頑張ってください。 **今後に向けての意欲喚起につながる助言**

総合的な評価

試合前のMTGにおいて、本人たちの課題について話し合った内容 および その点に関する所見

1) 課題

- ・急造ペアによるコンビネーション、基準の誤差を意識して、インカムを活用し、コミュニケーションをしっかりと取る。
- ・DFの評価とプレーヤーの個々の特性に対応した準備
- ・位置取り、ジェスチャー、ボディラングージによる「伝える」ことを意識する。

2) 所見

- ・急造ペアということに意識した準備・取り組みは良く出来ていた。
- ・ペアのコンビネーション、役割分担を意識するあまり、各々の観察すべきプレーに集中力が欠いたため、取りこぼし等罰則への反応が遅れた。
- ・選手・ベンチに「伝える」「理解させる」という事をゲームを通して行っており、コンタクトに努力が見れた。
ただし、説明をする場面が多く、状況によっては罰則を使って選手に付け入るスキを見せないことも必要。

具体的なアドバイス

①【笛のタイミングについて】

笛のタイミングが若干遅い。(ほんの僅か)

課題とその改善に対する助言

戦術的な予測、1対1の位置取りと予測をうまく組み合わせ、準備が必要。

3歩3秒の担保と発展性のないプレーの見極めによるジャストタイミングにできるだけ近づける努力をしてほしい。

プレーが激しくなるほど、より良い介入の為の笛のタイミングが重要となる。

②【罰則・8:4にある即座に2分間退場への準備について】

試合運営に係る助言

ゲームの導入について、基準作りの為にも敢えて強めの罰則の適用も必要。前半2分26秒黄色チーム21番ホールディングを注意ではなく罰則(2分間退場)として毅然とした基準を示すべきと考える。

また、前半15分29秒黄色チーム5番のウィングプレーヤーに対するロングフットによる接触、

直後の15分35秒の青チーム9番のカットインに対するアタックと連続して取りこぼしており、これは基準のプレに繋がりに、

結果として選手・ベンチとの信頼関係が壊れるきっかけとなる。

ゲーム全体に影響を及ぼすために導入時より集中した観察と毅然とした基準を示すことが重要である。

③【パッシブプレーの判定について】

具体的な競技規則運用に関する助言

パッシブプレーの予告については概ね一定しており良かったが、パッシブプレーの予告後のOFプレーヤーのミスや

消極的なプレーが発生しているにもかかわらずプレーを継続させている場面があった。これはDF側へのストレスが大きく、

ゲームの流れをスムーズにするためにも適切なターンオーバーの笛を吹くことが重要である。

総合的な評価

試合前のMTGにおいて、本人たちの課題について話し合った内容 および その点に関する所見

1) 課題

丁寧な吹笛を心掛けたい。(雑になりがちであるため)

特にゲーム開始後の時間帯については、お互いのコミュニケーションはもちろんのこと、ベンチ役員、選手とのコンタクトも意識的に働きかけていく。

このことにより、良い流れを作っていく。

2) 所見

試合開始後、両チームともミスが多く、接戦ながら雑な展開となった。

しかし、両レフェリーは声掛けをするなど積極的に選手・役員に働きかけ、スムーズな進行に繋がった。

ただ、丁寧に吹笛する意識が高かったためなのか、前半307'の黒チームウイングの選手に対する警告は罰則としては適当であるが、あえてカードは必要なかった。

全体に試合はよく管理されており、チーム役員とのコンタクト、選手とのコミュニケーション及び両レフェリー間の意思の疎通も十分に図られていた。

具体的なアドバイス

①【オフENSIFファールの判定について】

具体的な課題の場面と助言

左右のバックプレイヤーがアウトフェイントを企画したのち、ウイングディフェンスにバックチャージするケースが散見された。前半は的確にオフENSIFファールを取っていた。後半になり、攻防が激しくなりディフェンスのチェックも厳しくなってきた段階では、ボールの展開に気を取られ、オフENSIFファールが取られなくなった(直前の攻撃側の位置取りを視野に入れておきたい)。

②【PVゾーンについて】

試合運営に関する課題の提示と助言

全体としてはGRが視野を広くし、的確に判定を行っていた。しかし、攻防が激しくなってきた段階では、最終的な局面でのジャッジとなり、その直前のPVとディフェンスの位置取りをめぐっての攻防の中で、GR側からはPVのブロッキング等のオフENSIFファールが取り切れない場面もあり、CRとの連携の取り方に配慮が必要である。インカムのみでの指示(受け答え)に加えて、ゼスチャーにより選手に対してのアピールを伴うジャッジを工夫したい。

③【罰則の適用について】

具体的な時間における課題の提示

後半1'15"の赤チームの退場は適当である(攻撃側の選手に対して下側から押し上げる)。

ただし、前半17'00"には同様のケースで罰則が適用されなかった。選手が接触後転倒した際は安全の確認を優先し、

激しい転倒の際はその直前の行為を元に正しく判定するべきである。このケースでは選手が転倒した場面で

レフェリータイムを取り(実際はタイムなし)、その後両レフェリーが確認し退場を示しても良かった。

プレーが激しくなると、レフェリーも緊張感が高まり、吹笛のタイミングが早くなる傾向があるが、

全体の視野を広く持ち、冷静な判断が求められる。

総合的な評価

試合前のMTGにおいて、本人たちの課題について話し合った内容 および その点に関する所見

1) 課題

- ・黄色チームのピボットプレーヤーと白チームDFの接触について、しっかりと見極めていきたい。
- ・接触時のスピードや当たりの強さによって、影響が異なる場面があり、その判定を確実に行っていきたい。

2) 所見

- ・ピボットプレーヤーとDFの接触については、ハリウッドアクションへの指導も含め、選手によく話しかけてラフなプレーにまでは発展していなかった。ゲーム終盤にピボットプレーヤーがDFの腕を引っ張りながら倒れた場面があったが、ボール保持がDF側に流れたため、プレー続行となった。もう少し丁寧なジャッジとベンチとのコミュニケーションがあればよかった。
- ・接触時の当たりについては、概ね問題なく、ハードプレーとラフプレーの見極めができていたと思われる。

具体的なアドバイス

①【ステップについて】

判定基準についての助言

- ・4歩目（5歩目）まで歩いたと思われるプレーが前後半ともに何度かあり、ベンチ役員が立ち上がってアピールする場面があった。TOが座るように指示を出したが、レフェリーもベンチとのコミュニケーションをもう少し増やし「しっかりと見ていますから」と伝えていけば良い。
- ・オーバーステップを見逃すことによって、DF側が不要な反則を行い、罰則を受ける事にもつながるので、ステップの基準はブレないようにして、不要な反則を生みださない判定が必要である。

②【7mスローの罰則付加について】

判定基準についての助言

- ・明らかな得点チャンスにおける7mスローはしっかりと取れていた。7mスローのみか罰則が付加されるかの判断で、曖昧なジャッジが終盤に一つあった。エリア内防衛で7mスローで罰則はないということを、ベンチや観客にわかるようなジェスチャーがあれば、納得したのではないかな。

③【コミュニケーションについて】

試合運営に関する助言

- ・選手とは声かけをよく行い、罰則に発展しないよう努めていた。ハリウッドアクションと思われる動きについても、攻守が切り替わった後に伝え、選手は理解していた。
- ・ベンチとのコミュニケーション、接触がなかったため、判定に対するフラストレーションが溜まったベンチ役員がハーフタイムに質問することにつながったのではないかな。適切なアプローチが必要と思われる。

<日本協会 HP 競技・審判本部「競技規則」に関するページ>



<http://www.handball.or.jp/rule/index.html>

競技規則、問題集、最新の通達を掲載中！

※ 「競技規則」 「競技・審判本部」 の2種類のページがあります

★ 競技・審判本部では、公式 YouTube チャンネルを開設しています！



https://www.youtube.com/channel/UCrA_UtDr4_sk6Mykclpkt_w/videos

年度ごとの「審判員の目標」に関する補助資料や、IHFが求めるモダンハンドボール（スピーディーなゲーム展開）に関するレフェリーの判定基準等を、映像で提供しています。

※ 解説等の資料は、日本協会 HP「競技・審判本部」ページに掲載しています



2022 Japan Handball Association

Japan Handball League Organization